

釧路湿原自然再生協議会

第1回 再生普及・地域づくり小委員会(仮称)

日時：令和7年2月7日(金) 13:30～16:30

対面およびオンライン(Zoom)開催

議 事 次 第

1. 開 会
2. 小委員会再編の経緯について
3. 委員長、委員長代理の選出
4. 議 事
5. その他
6. 閉 会

配 布 資 料

- [資料1] 議事次第
- [資料2] 再生普及・地域づくり小委員会(仮称) 委員名簿
- [資料3] 第1回再生普及・地域づくり小委員会(仮称) 出席者名簿
- [資料4] 小委員会再編の経緯について
- [資料5] 第1回再生普及・地域づくり小委員会(仮称) 資料
- [資料6] 第4期釧路湿原自然再生普及行動計画の評価について(案)
- [参考資料1] 市民参加の取り組み実施状況(現地見学会等実施報告書)
- [参考資料2] 市民参加の取組み 参加者アンケート集計結果
- [参考資料3] 第4期釧路湿原自然再生普及行動計画(2020-2024)における概況
- [参考資料4] 令和6年度 釧路国際ウェットランドセンター市民環境調査について

- ・ 第39回再生普及小委員会 ニュースレター
- ・ 第13回地域づくり小委員会 ニュースレター
- ・ 意見・要望アンケート用紙

釧路湿原自然再生協議会
再生普及・地域づくり小委員会（仮称） 委員名簿

計:83名

■個人(42名)

(敬称略、五十音順)

No.	氏 名	所 属
1	赤 坂 泰 志	
2	荒 谷 邦 雄	九州大学大学院 比較社会文化研究院
3	太 田 充	筑波大学 システム情報系（社会工学域都市計画分野）
4	金 子 正 美	酪農学園大学
5	亀 山 哲	国立環境研究所 生物多様性領域 生態系機能評価研究室
6	川 嶋 啓 太	
7	川 西 亮 太	北海道教育大学釧路校
8	木 附 晃 実	九州大学 基幹教育院共創学部
9	君 塚 孝 一	(有)自然文化創舎
10	工 藤 知 美	特定非営利活動法人 EnVision環境保全事務所
11	坂 井 一 浩	八千代エンジニアリング株式会社 北海道営業所
12	櫻 井 一 隆	
13	貞 國 利 夫	釧路市立博物館
14	佐 竹 直 子	ボランティアネットワーク・チャレンジ隊
15	新 庄 興	
16	新 庄 久 志	釧路国際ウェットランドセンター 技術委員会
17	杉 澤 和 之	
18	杉 澤 拓 男	
19	関 基	八千代エンジニアリング株式会社 北海道営業所
20	高 崎 優 子	北海道教育大学 教育学部 釧路校
21	高 嶋 八 千 代	
22	高 橋 忠 一	
23	竹 中 康 進	環境省
24	鶴 間 秀 典	
25	照 井 滋 晴	特定非営利活動法人 環境把握推進ネットワーク-PEG
26	中 村 研 二	釧路公立 大学地域経済研究センター
27	中 村 太 士	北海道大学
28	野 本 和 宏	釧路市立博物館
29	橋 本 俊 彦	
30	長 谷 泰 昌	鶴居村立幌呂中学校
31	長 谷 川 理	特定非営利活動法人 EnVision環境保全事務所
32	平 岩 誠	カヌーショップヒライワ
33	平 間 清	(有)平間ファーム
34	福 田 兼 三	釧路自然保護協会
35	福 田 貴 志	釧路自然保護協会
36	藤 岡 悠 一 郎	九州大学 共創学部
37	松 橋 尚 文	釧路自然保護協会
38	松 本 文 雄	
39	山 本 太 郎	一般財団法人 北海道河川財団
40	吉 中 厚 裕	酪農学園大学 農食環境学群 環境共生学類
41	渡 辺 剛 弘	上智大学
42	渡 部 哲 史	九州大学

■ 団体(25名)

(敬称略、五十音順)

No.	団体/機関名	代表者名
1	一般社団法人 釧路観光コンベンション協会	会長 藤井 芳和
2	一般社団法人 釧路青年会議所	理事長 星野 敦生
3	王子ホールディングス株式会社	代表取締役社長 磯野 裕之
4	株式会社マーシュ&リバー	代表取締役 斉藤松雄
5	釧路川カヌーネットワーク協会	会長 小川 清史
6	釧路観光連盟	会長 中山 勝範
7	釧路国際ウェットランドセンター	理事長 鶴間 秀典
8	釧路自然保護協会	会長 神田 房行
9	釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ	会長 桐木 茂雄
10	釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会	代表幹事 芳賀 孝朋
11	釧路湿原国立公園連絡協議会	会長 鶴間 秀典
12	釧路武佐の森の会	会長 大西 英一
13	公益財団法人 日本生態系協会	会長 池谷 奉文
14	公益財団法人 日本鳥類保護連盟釧路支部	支部長 本藤 泰朗
15	公益財団法人 日本野鳥の会 鶴居・伊藤タンチョウサンクチュアリ	チーフレンジャー 原田 修
16	公益財団法人 北海道環境財団	理事長 大原 雅
17	国立研究開発法人 土木研究所寒地土木研究所 水環境保全チーム	上席研究員 柿沼孝治
18	こどもエコクラブくしろ	佐々木 誠治
19	さっぽろ自然調査館	代表 渡辺 修
20	塘路ネイチャーセンター	齋藤テディ
21	特定非営利活動法人 くしろ・わっと	理事長 小林 友幸
22	特定非営利活動法人 トラストサルン釧路	理事長 黒澤 信道
23	特定非営利活動法人EnVision環境保全事務所	理事長 赤松 里香
24	特定非営利活動法人美しい村・鶴居村観光協会	理事長 和田 正宏
25	特定非営利活動法人タンチョウ保護研究グループ	理事長 百瀬 邦和

■ オブザーバー(6団体)

(敬称略)

No.	団体/機関名	代表者名
1	阿寒農業協同組合	代表理事組合長 大畑 成市
2	釧路商工会議所	会頭 栗林 定正
3	釧路町商工会	会長 土井 茂人
4	標茶町商工会	会長 鈴木 勝己
5	鶴居村商工会	会長 大津 泰則
6	弟子屈町商工会	会長 竹森 英彦

■ 関係行政機関(10機関)

(敬称略)

No.	団体/機関名	代表者名
1	国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部	部長 坂 憲浩
2	環境省 釧路自然環境事務所	所長 岡野 隆宏
3	林野庁 北海道森林管理局	局長 吉村 洋
4	北海道 釧路総合振興局	局長 木村 英也
5	北海道教育庁 釧路教育局	局長 泉野 将司
6	釧路市	市長 鶴間 秀典
7	釧路町	町長 小松 茂
8	標茶町	町長 佐藤 吉彦
9	弟子屈町	町長 徳永 哲雄
10	鶴居村	村長 大石 正行

釧路湿原自然再生協議会
第1回 再生普及・地域づくり小委員会（仮称） 出席者名簿

資料3

■個人（20名）

（敬称略、五十音順）

	No.	氏 名	所 属
会場	1	赤 坂 泰 志	
	2	川 嶋 啓 太	
	3	櫻 井 一 隆	
	4	新 庄 久 志	釧路国際ウェットランドセンター 技術委員会
	5	杉 澤 拓 男	
	6	高 崎 優 子	北海道教育大学 教育学部 釧路校
	7	照 井 滋 晴	特定非営利活動法人 環境把握推進ネットワーク-PEG
	8	中 村 研 二	釧路公立大学 地域経済研究センター
	9	橋 本 俊 彦	
	10	平 岩 誠	カヌーショップヒライワ
	11	松 本 文 雄	
	12	山 本 太 郎	一般財団法人 北海道河川財団
WEB	13	亀 山 哲	国立環境研究所 生物多様性領域 生態系機能評価研究室
	14	君 塚 孝 一	（有）自然文化創舎
	15	工 藤 知 美	特定非営利活動法人 EnVision環境保全事務所
	16	坂 井 一 浩	八千代エンジニアリング株式会社 北海道営業所
	17	新 庄 興	
	18	関 基	八千代エンジニアリング株式会社 北海道営業所
	19	長 谷 川 理	特定非営利活動法人 EnVision環境保全事務所
	20	吉 中 厚 裕	酪農学園大学 環境共生学類

■団体（11団体）

（敬称略、五十音順）

	No.	団体/機関名	出席者名
会場	1	一般社団法人 釧路観光コンベンション協会	専務理事 石山 巖
	2	釧路川カヌーネットワーク協会	会長 小川 清史
	3	釧路観光連盟	専務理事 長沼 大平
	4	釧路国際ウェットランドセンター	事務局次長 元岡 直子
	5	釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会	代表幹事 芳賀 孝朋
	6	釧路湿原国立公園連絡協議会	事務局次長 元岡 直子
	7	公益財団法人 北海道環境財団	企画事業課長 山本 泰志
	8	こどもエコクラブくしろ	サポーター 近藤 一燈美
	9	特定非営利活動法人 タンチョウ保護研究グループ	理事長 百瀬 邦和
WEB	10	一般社団法人 釧路青年会議所	専務理事 白崎 喬大
	11	国立研究開発法人 土木研究所 寒地土木研究所 寒地水圏研究グループ 水環境保全チーム	上席研究員 柿沼 孝治

■オブザーバー（3機関）

（敬称略）

	No.	団体/機関名	出席者名
会場	1	釧路商工会議所	地域振興部 次長 情野 裕良
	2	弟子屈町商工会	事務局長 豊島 洋樹
WEB	3	釧路町商工会	事務局長 藤川 幸司

■関係行政機関（7機関）

（敬称略）

	No.	団体/機関名	出席者名
会場	1	国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部	釧路河川事務所 所長 西藤 浩二
	2	環境省 釧路自然環境事務所	所長 岡野 隆宏
	3	北海道 釧路総合振興局	保健環境部 環境生活課 自然環境係 係長 川島 新
			商工労働観光課 観光振興係 係長 沖野 洋
	4	釧路市	市民環境部 環境保全課 自然保護係 総括係長 元岡 直子
WEB	5	林野庁 北海道森林管理局	釧路湿原森林ふれあい推進センター 所長 川淵 義昭
	6	釧路町	商工観光課 観光係 主事補 森末 恵悟
	7	標茶町	企画財政課 企画調整係 係長 河村 晃

小委員会再編の経緯について

■自然再生協議会の現状と展望

- ・ 自然再生事業が軌道に乗り、個別事業の効果が示されてきた。今後は湿原全体の保全に対する評価にも展開していきたい。
- ・ 自然再生の取り組みを、次代に引き継ぐため、積極的に新たな委員、若手委員の登用を図っていきたい。
- ・ 小委員会を再編し、より効果的・効率的に事業の検討を行う体制としたい。

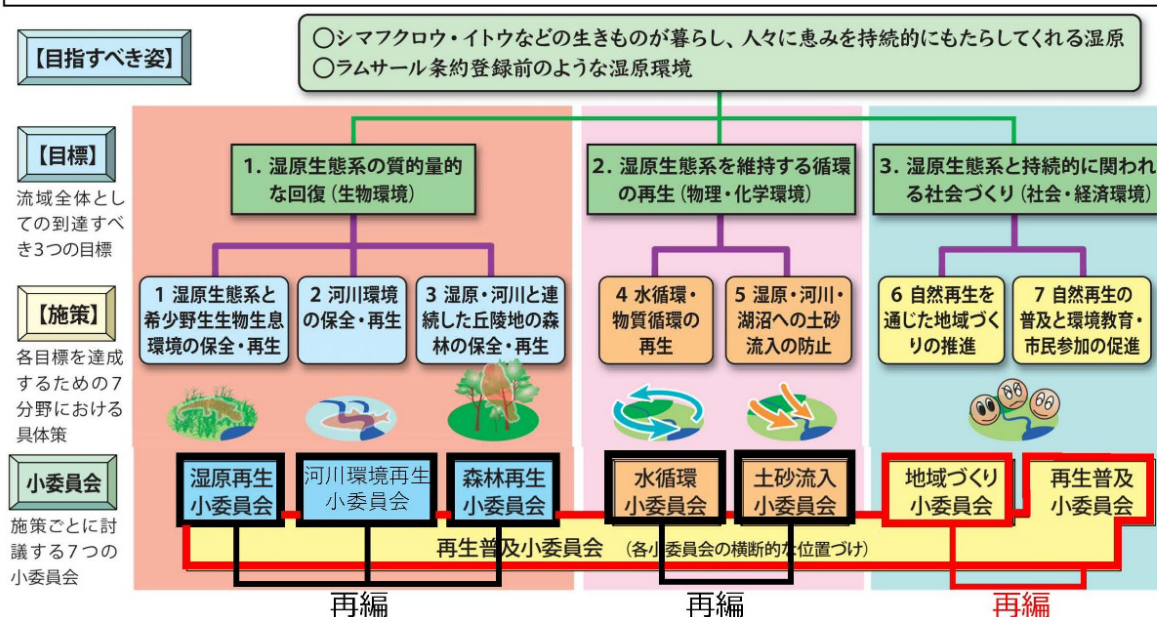
■再編のタイミングと意義

- ・ 気候変動・カーボンニュートラルなど世の中が大きく変動
- ・ 全体構想策定から20年(10年ごとに施策と評価方法の見直し)の節目
- ・ 取り組み、事業の切れ目(土砂流入・水循環)・(新規)雪裡地区自然再生

■再編結果(令和6年 7→3小委員会の書面同意)

- ・ 構成員へ令和6年10月7日～10月18日の期間で書面確認
- ・ 回答数 全数N=80のうち、賛成N=78、反対N=1、その他(意見なし)N=1

- ・ 釧路湿原自然再生全体構想策定から20年を契機に、議論の活性化や持続的な協議会運営などを鑑み、7つの小委員会を3つに再編成した。
 - ・ 再生普及・地域づくり小委員会(仮称)では、社会・経済環境に着目した検討を行っていく。
- (事務局:環境省釧路自然環境事務所、北海道開発局釧路開発建設部、北海道釧路総合振興局)



釧路湿原自然再生協議会運営細則の改正について

 : 変更予定箇所

釧路湿原自然再生協議会運営細則

第1章 小委員会

(設置)

第1条 協議会に次の小委員会を設置する。

1. 湿原再生小委員会
2. 河川環境再生小委員会
3. 土砂流入小委員会
4. 森林再生小委員会
5. 水循環小委員会
6. 地域づくり小委員会
7. 再生普及小委員会

(検討事項)

第2条 各小委員会では、次の事項を検討する。

1. 湿原再生小委員会
湿原の再生（野生生物の生息環境修復を含む）に関する実施計画、その実施状況及びモニタリング結果等
2. 河川環境再生小委員会（旧称：旧川復元小委員会）
河川の再蛇行化等に関する実施計画、実施状況及びモニタリング結果等
3. 土砂流入小委員会
河川への土砂流入防止に関する実施計画、実施状況及びモニタリング結果等
4. 森林再生小委員会
森林の再生（野生生物の生息環境修復を含む）に関する実施計画、実施状況及びモニタリング結果等
5. 水循環小委員会
水質地下水の動態把握・評価、湖沼の再生（野生生物の生息環境修復を含む）等に関する実施計画、実施状況及びモニタリング結果等
6. 地域づくり小委員会
バランスの取れた社会経済活動と湿原保全の推進、観光・地域振興による湿原の賢明な利用、地元産業との連携及び情報の発信・提供等に関する事項等
7. 再生普及小委員会
釧路湿原の自然再生における環境教育、市民参加及び情報共有の推進並びに小委員会間連携の強化に関する事項等

: 変更予定箇所

(小委員会事務局)

第 3 条 小委員会の会務を処理するための事務局を設ける。

1. 事務局は、協議会運営事務局が兼ねる。

(事務局の所掌事務)

第 4 条 事務局は、次に掲げる事務を行う。

- (1) 小委員会の会議の運営
- (2) 小委員会の会議の議事要旨の作成及び公開に関する事項
- (3) その他小委員会が付記する事項

第 2 章 協議会及び小委員会の運営

(協議会及び小委員会の傍聴)

第 5 条 協議会の会議及び小委員会は、傍聴ができる。

1. 傍聴者は、原則として会議中に発言することはできない。
2. 傍聴者の受け入れは、希望者全てが傍聴できることを基本とし、傍聴の申し込みを当日会場で受け付ける。

(協議会及び小委員会の記録)

第 6 条 運営事務局は、協議会の会議及び小委員会の議事要旨を、公開する前に原則として、会長又は委員長及び発言した委員の確認を得なければならない。

第 3 章 補則

(細則改正)

第 7 条 この細則は、要綱第 5 条に規定する協議会の委員の発議により、協議会の会議の出席委員の同意を得たうえで、会長が改正することができる。

附則

この細則は、平成 15 年 11 月 15 日から施行する。

平成 27 年 3 月 16 日 一部改正

令和 2 年 9 月 1 日 小委員名称変更

令和 7 年 3 月 7 日 小委員会の名称・検討事項の改正

再生普及・地域づくり小委員会

2025/2/7

1. 再編後小委員会の目的・名称
2. 再生普及小委員会
 - 2.1 再生普及小委員会について
 - 2.2. 取り組み状況の報告
 - 2.3. 第4期再生普及行動計画の評価案について
3. 地域づくり小委員会
 - 3.1. 地域づくり小委員会について
 - 3.2. 取り組み状況の報告
4. 総合討論

〇〇小委員会

産業連携
地域づくり

サステナブル
ツーリズム振興

環境教育
普及啓発

- ・釧路川トイレ設置
- ・自然再生事業箇所マップ
- ・自然再生事業レイアウトマップ
- ・右岸堤防利活用ルール

- ・ロングトレイル
- ・アドベンチャートラベル
- ・うまたび
- ・マルチパーパストレイル
- ・鶴居村釧路湿原観光コンテンツ創出事業

- ・学校支援WG
- ・教員講座
- ・市民講座
- ・フィールドワークショップ
- ・再生普及行動計画案作成

ワンダグリンダ・プロジェクト

釧路湿原自然再生普及行動計画

釧路湿原インタープリテーション全体計画

- ・ストーリー
(来訪者に伝えるべき価値)
- ・フェノロジーカレンダー

2. 再生普及小委員会

2. 1. 再生普及小委員会について

■設置目的

- ・ 釧路湿原の適正な保全と利用の推進並びに自然再生を活用した環境教育、市民参加、情報の発信及び提供等に関する事項等について協議する。

『第1回再生普及小委員会資料』より抜粋

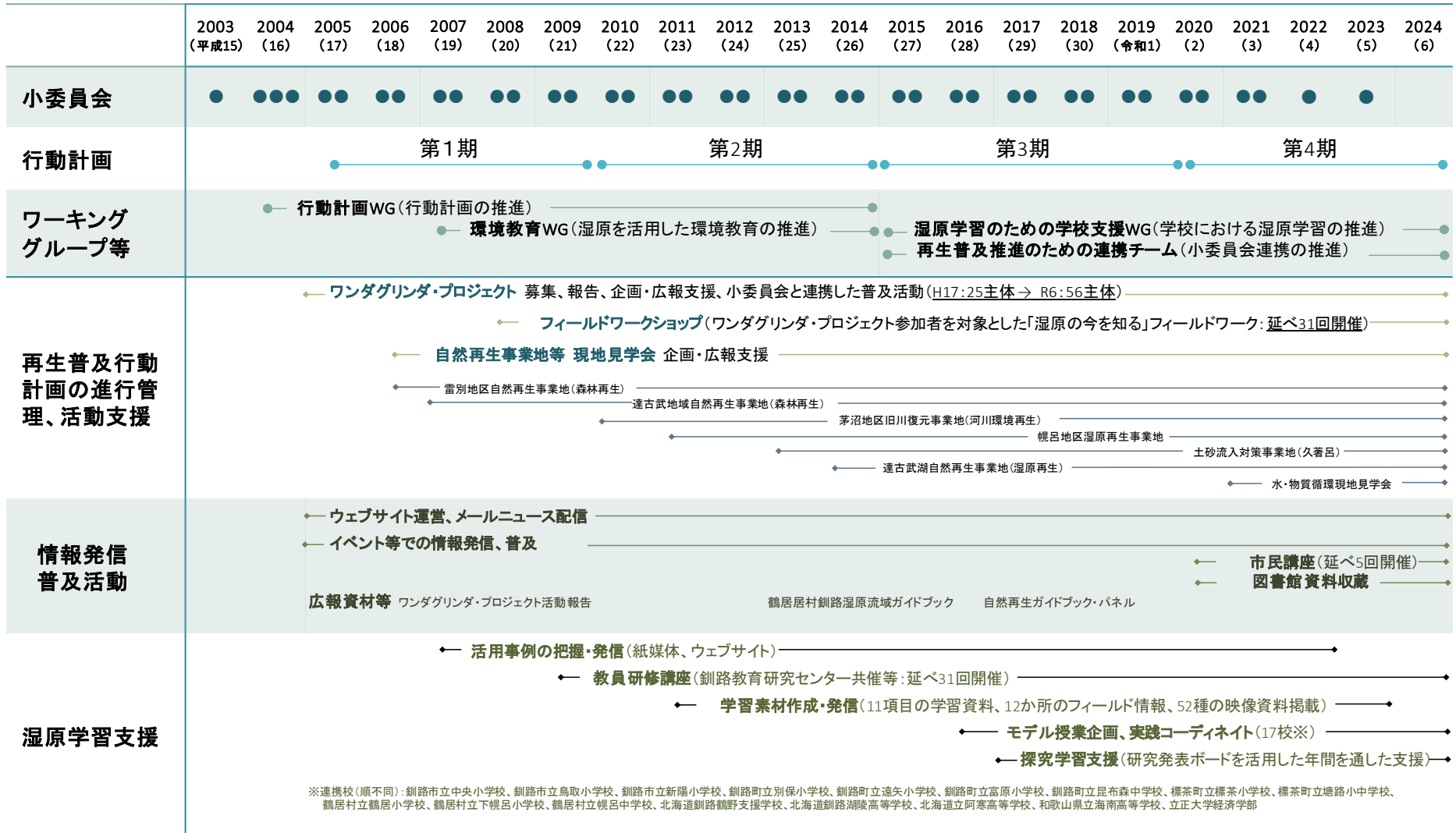
■検討事項

- ・ 釧路湿原の自然再生における環境教育、市民参加及び情報共有の推進並びに小委員会間連携の強化に関する事項等

『釧路湿原自然再生協議会運営細則』より抜粋

■設置目的

- ・ 再生普及行動計画の進行管理、活動支援
- ・ 情報発信、普及活動
- ・ 学校教育における湿原を題材とした学習（湿原学習）の支援



■ワーキンググループ等

○第19回 湿原学習のための学校支援ワーキンググループ

日 時：令和6年8月20日（火） 14：00～16：00

場 所：釧路地方合同庁舎4階 第3会議室

参加者：14名（専門家1名、学校教員4名、教育委員会5名（オンライン3名）、協力団体・施設4名）

議 事：これからの湿原学習支援の方向性について

●主な意見など

- ・学校の勉強は、つながる、つなげる、つなげあう、つながりあうということが、大切。事務局からの提案は、良い視点でまとめられている。
- ・学校が湿原学習を意味として、湿原に行けない子、その余裕がない家庭を最後に救えるのは学校だということがある。現場に行き、生徒が自分なりに、自分が思う部分で関わることで、知識だけではなく体験として愛着や価値が生まれることが大切。
- ・先生方は学校も変わり、地域も変わり、情報交換会はとても大切だと感じている。こういう機会を活用しつつも、いかにやってきたことを伝えていくか、新しい先生が担当したとしても、実行できるという状況を作ることが、我々教員の課題かと思う。
- ・学習指導要領は、探究的な学びや地域フィールドを重視したものに変わってきている。学校では総合的な学習の時間の見直しや、探求的な学びを小中高の間でどう連携させていくかが問われている。教育委員会がどれだけリーダーシップを発揮できるかが重要になる。
- ・湿原学習を持続させる仕組みづくりのうえで、地域がその役割を担っていくことは必然であろう。その中で教育委員会の果たす役割もある。

■ワーキンググループ等

○第19回 再生普及推進のための連携チーム

日 時：令和6年11月21日（木） 10：00～11：30

場 所：釧路地方合同庁舎5階 第1会議室

参加者：12名

議 事：①小委員会事務局が実施する市民参加の取組みの実施状況について
②再生普及行動計画の評価について
③その他（各委員からの提案・連絡事項等）

●主な意見など

- ・この40年で判明した事柄を踏まえて、再生事業や普及活動の在り方を順応的に修正していく必要がある。
- ・釧路湿原に興味を持つ人が増えたという点では、普及活動が様々なところに徐々に浸透し始めているということであろう。このことは普及活動の成果と考えて良い。
- ・再生事業を意識した一次産業の方々の取組みを普及させることが協議会の役割。再生事業では、釧路湿原が釧路沿岸の藻場を守っていると謳っているので沿岸漁業との連携の道はある。そこが次のステップとなる。
- ・クルーズ船等を含む観光業者への再生事業ツアーメニューの提供とガイドの養成が再生普及の次のステップとなり得る。
- ・ツーリズムと連携し再生普及のための基金を作ることも次の検討事案になるであろう。今後の普及活動において企業と連携した取組みは重要な位置づけとなる。

■ワーキンググループ等

○第20回 再生普及推進のための連携チーム

日 時：令和7年1月28日（火） 10：00～11：30

場 所：釧路地方合同庁舎5階 第1会議室

参加者：13名

議 事：①再生普及小委員会のこれまでの取組み、成果と課題
②第4期再生普及行動計画評価案について（共有）
③その他（各委員からの提案・連絡事項等）

●主な意見など

- ・これまで長年に渡って行ってきたことが整理され、改めて振り返ることができた。次の全体構想等に反映していけたら良いと思う。
- ・小委員会の再編成により行動計画は形を変えて引き継がれることになるだろうが、今までやって来たことを活かして進めていきたい。
- ・計画評価について、B評価のものをA評価にすることも大事だが、A評価を維持しつつその先を目指すことも必要。
- ・2003年から2024年まで、非常に広い範囲で様々なアプローチで展開されてきている。とりわけこの数年間における課題が次の小委員会へのバトンタッチになる。
- ・我々が教育現場に行って説明するのも良いが、教員一人一人が釧路湿原の事を知り、各々が湿原学習を実施できる状態が理想。

■再生普及行動計画の進行管理、活動支援

○ワンダグリンダ・プロジェクトの推進

昨年度の参加団体を対象に、ヒアリング等により活動状況や今後の参加意向を把握し、ホームページに情報を掲載した。

参加団体：56団体・個人

連携校：6校

広報支援：8施設

URL：<https://www.kushiro-wanda.com/projects/>



参加団体紹介ページ

○プロジェクト参加団体と連携した取組

イベント出展、施設展示のほか、小学校が行う湿原学習の企画や、学習支援等を参加団体と連携して行った。

《取組内容》

辻野正さん：湿原クラフト体験教室・展示、ジオラマ展示

タクッパさん：展示「アイヌ民族と植物」

長谷泰昌さん：フィールド学習の企画実施

釧路市動物園「タンチョウレスキューの現場から」：

パネル展示、フィールド学習支援

シルバーシティときわ台ヒルズ：講演会、パネル展示



「エコフェア2024」での連携した啓発

●イペーの種子 (2024年)

第1回「雷別ドングリ倶楽部」
6月25日 (火)

参 加 : 18名
 場 所 : 富田地区自然再生事業地
 (富田区富田・後藤緑野森林管理室285林区)
 主 催 : 森林再生の委員会
 事務局 : 後藤緑野森林ふれあい遊学センター

「雷別ドングリ倶楽部」は、高野郡のトドマン工林が気象庁によって立ち
 消え、荒地となった場所が広がっている雷別富林をフィールドとして、
 平成19年9月から森林再生に取り組んでいるボランティアの方々の集まり
 です。
 今回の雷別地区自然再生事業地の田舎10で、樹木整備であるミズナ、ヤブ
 タコ、カヅナ、キハダが70本を越えるとともに、植林木をエゾシカやメノ
 などの野生生物の食害から守るための柵設置 (ソーリェルター) で作業し
 ました。

植田の様子

植林管理している様子

保護設置の際の様子

今年夏から新たに参加する会員の方が6名いましたが、バテランの会員の方々が半数ほど作業を押し回して予定していた活動
 内容、終了しました。
 参加者からは、「ふれあいセンターの方から、森林や田舎の魅力を学びたいです。今日、植えた木の名前も覚えることができ
 ました。」「苗木が無事育ってほしい。また、参加したい。」等の声があり、森林再生の活動への理解が深められて喜ばれ
 高めていただけたようです。

雷別へ植樹に行こうヨ！

6月29日 (火)

この活動は、地域住民から参加者を募集し「植樹」等を通じて、森林再生へ
 の理解を深めていただく目的で実施しました。
 当日は午前中に富田地区自然再生事業地の植地10で、樹木整備であるミズナ

■情報発信、普及活動

○ウェブサイトへの情報掲載

●みんなで進める！釧路湿原の自然再生

URL : <https://www.kushiro-wanda.com/>

内 容 : ワンダグリンド・プロジェクト参加者の活動状況や釧路湿原で行われる行事情報、自然再生事業地実施報告、推進連携チームおよび学校支援ワーキンググループ会合資料等を掲載。

●きづく わかる まもる 釧路湿原

URL : <https://www.kushiro-ee.jp/>

内 容 : 学校教育における湿原の活用事例、事務局による支援内容、教員研修講座の記録等を掲載。



みんなで進める！釧路湿原の自然再生 HP



きづく わかる まもる 釧路湿原 HP

2. 2. 取り組み状況の報告

■情報発信、普及活動

○イベントカレンダーへの掲載

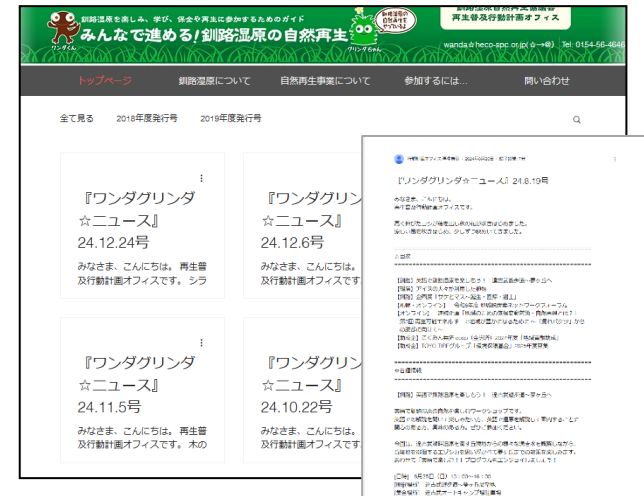
ワンダグリンド・プロジェクト参加団体等の活動状況、釧路湿原で行われる行事情報等を行事毎にカレンダーに掲載した。

釧路湿原イベントカレンダー



○メールニュースの配信・ウェブサイトへの掲載

配信時期に合わせて、同上の情報をメールニュースとしてとりまとめ、月2回の頻度で配信したほか、各配信号をウェブサイトに掲載した。



■情報発信、普及活動

○イベント等での情報発信、普及

- 釧路湿原サイエンスフェア（企画展示）
期 間：9月26日(木)～11月28日(木)
場 所：温根内ビジターセンター
内 容：児童の学習成果展示（研究発表ボード5校16人分）
- 釧路市生涯学習フェスティバル「まなトピア2024」
期 間：11月9日(土)、10日(日)
場 所：釧路市生涯学習センター まなぼつと幣舞
内 容：パネル展示、航空写真展示、標本展示、生き物写真展示
- くしろエコ・フェア2024
開催日：11月17日(日)
場 所：釧路市中央図書館
内 容：パネル展示、ワンダグリンダ参加団体活動紹介、
湿原クラフト体験教室



釧路湿原サイエンスフェア（企画展示）



「まなとぴあ2024」への出展



「くしろエコ・フェア2024」への出展

■情報発信、普及活動

○市民講座の実施

- 湿原と地域を学び、湿原を体験して、湿原の仕組みを知る！釧路湿原の『すごい！』を体験しよう

日 時：10月26日（土）9:45～12:30

参加者：9名

場 所：釧路湿原右岸堤防南側湿原（鶴居村温根内）および温根内ビジターセンター

講 師：新庄 久志 氏（釧路国際ウェットランドセンター技術委員長）



■ 湿原学習支援

○ 教員研修講座の実施

- 環境教育の充実 ～釧路湿原を題材とし、研究発表ボードを活用した『ジュニア研究』から～

実施日：11月13日（水）

参加者：7名

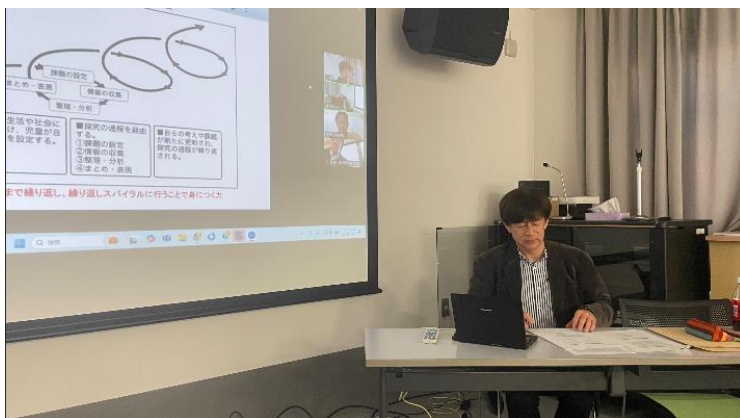
場 所：釧路市こども遊学館 1階 視聴覚室

オンライン併用

講 師：境 智洋さん（北海道教育大学釧路校 教授）

話題提供：古野 峻也さん（釧路市こども遊学館）

主 催：釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会湿原学習のための学校支援ワーキンググループ、
釧路市こども遊学館



■ 湿原学習支援

○ フィールド学習のコーディネート

湿原学習に取り組む学校を対象として、以下の取組を通して湿原を活用した授業づくりの支援を行った。

《実施校》

釧路市立中央小学校5年生、釧路町立別保小学校5年生、釧路町立富原小学校4年生
標茶町立標茶小学校5年生、鶴居村立幌呂中学校1～3年生、北海道釧路鶴野支援学校 高等部普通科1年生から3年生

《情報提供》

フィールドプログラム企画助言、施設等との調整事項、フィールドの特徴、説明例等の提示

《フィールドでの対応》

フィールドの事前確認（フィールドの特徴、プログラムおよび学習内容等の教員への説明）、当日対応等



富原小学校への対応（細岡）



別保小学校への対応（達古武）

■ 湿原学習支援

○ 探求学習支援（協力施設、団体、学校と連携した湿原学習の推進）

地域の様々な主体と連携した湿原学習の支援体制づくりを進めるため、オンラインでの情報交換会を実施した。

フィールド学習や探究学習に向けた助言、資料提供を受けて学校に共有したほか、数主体とフィールド学習当日の対応を共同で行った。今後、発表会での助言、発表の場づくりを共同して実施する（予定）。

（情報交換会参加主体） 順不同

- ・ 国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部 治水課
- ・ 環境省 釧路湿原自然保護官事務所
- ・ 釧路市動物園
- ・ NPO法人環境把握推進ネットワーク -PEG
- ・ 釧路市こども遊学館
- ・ 北海道教育大学釧路校 境教授
- ・ 小学校4校、中学校1校



オンライン情報交換会



フィールド学習時の共同主体からのレクチャー

■自然再生事業地等現地見学会

○探求学習支援（協力施設、団体、学校と連携した湿原学習の推進）

各小委員が主催し、再生事業地の現地見学会、湿原の仕組み等を体感するフィールド行事を実施。
（各行事の詳細、アンケート回答は参考資料2を参照）

開催日	行事名	参加者	主催
6月29日	雷別へ植樹に行こうYο！	4名	森林再生小委員会事務局
7月20日	「幌呂地区湿原再生」観察・体験会	16名	湿原再生小委員会事務局
8月21日	久著呂川自然再生見学ツアー	9名	土砂流入小委員会事務局
9月28日	企業と連携した広葉樹の森林づくり	17名	森林再生小委員会事務局
10月26日	市民講座「湿原と地域を学び、湿原を体感して、湿原のしくみを知る！」	9名	再生普及行動計画オフィス
10月26日	「水・物質循環」現地見学会	19名	水循環小委員会事務局

■ 第4期行動計画の柱

○ 3-1 市民参加・環境教育とともに

《項目》

- ① 湿原を身近に感じる ～人々が湿原とつながる～
- ② 湿原と地域に学ぶ ～学校や地域での学びの幅を広げる～
- ③ 湿原のために行動する ～保全や再生に関わる人・機会を増やす～

○ 3-2 湿原とともに暮らす未来にむけて ～地域への貢献～

《取り組みの指針》

- (1) 一次産業とのつながりをひろげる
- (2) 観光分野との連携をすすめる
- (3) 湿原のワイズ・ユースに向けたルールของ普及

第4期 釧路湿原 自然再生普及行動計画

2020年9月

釧路湿原自然再生協議会



■評価方法

○3-1 市民参加・環境教育とともに

- ・①～③の項目に対応する取組みについて、評価指標も用い、取組み状況を整理
- ・期待される成果に対してABCの3段階で評価※
- ・上記を踏まえ、①～③の各項目に対してABCの3段階で評価
- ・①～③の評価を踏まえて、3-1に対して定性的に評価

○3-2 湿原とともに暮らす未来にむけて ～地域への貢献～

- ・（１）～（３）の取組み指針に対応する取組みについて、評価指標も用い、取組み状況を整理
- ・期待される成果に対してABCの3段階で評価※
- ・上記を踏まえ、（１）～（３）の各指針に対してABCの3段階で評価※
- ・（１）～（３）の各指針の評価を踏まえて、3-2に対して定性的に評価

※ A B C 評価の定義

- A) 十分な取組みの成果が得られた
- B) 課題があるものの一定の成果が得られた
- C) 取組みの充実が望まれる

■評価結果

項目・指針	A	B	C
3-1 ①湿原を身近に感じる ～人々が湿原とつながる～	○	—	—
3-1 ②湿原と地域に学ぶ ～学校や地域での学びの幅を広げる	○	—	—
3-1 ③湿原のために行動する ～保全や再生に関わる人・機会を増やす	—	○	—
3-2 (1)一次産業とのつながりをひろげる	—	○	—
3-2 (2)観光分野との連携をすすめる	○	—	—
3-2 (3)湿原のワイズ・ユースに向けたルールの普及	—	○	—

■計画評価 3-1 市民参加・環境教育とともに

①湿原を見直に感じる ～人々が湿原とつながる～

取組み状況詳細、ABC評価の判断根拠については資料 6 参照

《取組みの実施状況》

- ・ ホームページ・メールニュースでの情報発信・イベントでのPR（継続）、ホームページ掲載情報の充実（第4期より）
- ・ ワンダグリンダ・プロジェクト参加団体による多様な取組み（継続）、参加団体と連携した取組み（拡充）
- ・ 湿原学習に取り組む児童からの発信（第4期より）
- ・ 図書館との連携（第4期より）

《『期待される成果』の評価》

- ・ 協議会構成員やワンダグリンダ・プロジェクトの活動をとおして、釧路湿原とつながる情報発信が継続的になされる。【A評価】
- ・ ワンダグリンダ・プロジェクトの活動に、新たな広がりや発展が見られる。【A評価】
- ・ 新たな分野から協議会との連携・協力が得られる。【A評価】

《3-1 ①の評価》 A評価

各主体が工夫して取組みの継続が試みられたほか、多様な媒体、手法を用いた情報発信、主体間の連携が行われた。また、期待される成果について、いずれも十分な取組み成果が得られた。

■計画評価 3-1 市民参加・環境教育とともに

②湿原と地域に学ぶ ～学校や地域での学びの幅を広げる～

取組み状況詳細、ABC評価の判断根拠については資料6参照

《取組みの実施状況》

- ・教員研修講座、フィールドワークショップの企画実施（継続）
- ・ビジターセンター等施設、オフィスによる学習支援（継続）、フィールド学習のコーディネート（第4期に拡充）
- ・施設、団体、学校と連携した湿原学習の推進（第4期から）
- ・教育分野における自然再生事業地の活用（第4期に拡充）
- ・湿原の多面的な価値を体感する行事企画（第4期から）

《『期待される成果』の評価》

- ・教員や社会教育を担う人々に湿原の価値が認識される。【A評価】
- ・湿原に関する学習の機会が増加する。【B評価】
- ・学校、NPO、専門家、地域産業などの連携が進み、新たな学びの機会が形成される。【A評価】
- ・湿原が地域にもたらす様々な機能や価値が、今よりも活用され、湿原に関する理解が深まる。【A評価】

《3-1 ②の評価》 A評価

コロナ禍により学習機会は減少したものの、多様な主体の連携、取組みの工夫を通して、質を高めた学習機会の企画、多様な媒体を活用した学習機会が生まれた。また、期待される成果について一部課題を有したものの、十分な取組み成果が得られた。

■計画評価 3-1 市民参加・環境教育とともに

③湿原のために行動する ～保全や再生に関わる人・機会を増やす～

取組み状況詳細、ABC評価の判断根拠については資料6参照

《取組みの実施状況》

- ・協力施設、団体、学校と連携した湿原学習の推進（第4期から）《再掲》
- ・地域づくり小委員会における自然再生事業箇所・利活用の取組み（第4期から）
- ・ボランティア登録制度の運用・広報、他事業との交流（継続）、自然再生事業地 現地見学会の実施（継続）
- ・フィールドワークショップの実施（継続）《再掲》、市民講座、水循環小委員会主催行事の実施（第4期から）《再掲》
- ・小委員会、協議会の取組み（継続）

《『期待される成果』の評価》

- ・湿原の保全や再生、地域づくりの取組みに、学生・若者、長期滞在者、海外からの来訪者等の参加が得られる。【B評価】
- ・湿原の保全や再生、地域づくりにつながる活動が生まれる。【A評価】
- ・湿原の保全や再生、それらと関わる地域づくりに取り組む人々が協議会に参画する。【B評価】

《3-1 ③の評価》 B評価

コロナ禍も一因となり、連携の促進、新たな参加機会づくり、行動層の拡大に課題が残った。一方で、これまで行われてきた参加機会は多様な主体の努力により維持され、新たな取組みや連携も生まれた。期待される成果については、参加者層の拡大に課題を有したものの、一定の成果が得られた。

■ 計画評価 3-2 湿原とともに暮らす未来にむけて ～地域への貢献～

(1) 一次産業とのつながりをひろげる

取組み状況詳細、ABC評価の判断根拠については資料 6 参照

《取組みの実施状況》

- ・ 地域づくり小委員会の取組み（取組みの拡充）《一部再掲》
- ・ 河川環境再生小委員会の取組み（4期から）

《『期待される成果』の評価》

- ・ 一次産業関係者の協議会への参加や協働事業が進む。【B評価】

《3-2 (1) の評価》 B評価

期待される成果については一部課題も見られるものの、地域づくり小委員会の取組みにおける農業従事者との継続した意見交換、釧路川支川魚類生息環境の再生事業における農業従事者の協力を得た取組みの実施等、地域の理解促進に向けた取組み、新たな連携に向けた議論が進んでいる。

■ 計画評価 3-2 湿原とともに暮らす未来にむけて ～地域への貢献～

(2) 観光分野との連携をすすめる

取組み状況詳細、ABC評価の判断根拠については資料 6 参照

《取組みの実施状況》

- ・ 地域づくり小委員会の取組み（取組みの拡充）《一部再掲》

《『期待される成果』の評価》

- ・ 湿原の保全や再生と観光・地域づくりを両立する取組みがはじまる。【A評価】

《3-2 (2) の評価》 A評価

地域づくり小委員会の取組みを通して、情報の発信、相互の交流、つながりづくり等が進められているほか、標茶町、鶴居村において再生事業地の活用に向けた議論が進んでいる。

■ 計画評価 3-2 湿原とともに暮らす未来にむけて ～地域への貢献～

(3) 湿原のワイズ・ユースに向けたルールの普及

取組み状況詳細、ABC評価の判断根拠については資料 6 参照

《取組みの実施状況》

- ・ 地域づくり小委員会の取組み（取組みの拡充）《一部再掲》

《『期待される成果』の評価》

- ・ 湿原を訪れる来訪者に向けた、適正な利用のルールが普及する。【B評価】

《3-2 (3) の評価》 B評価

カヌーガイドライン改訂版の作成、普及が進んでいるほか、右岸堤防の活用についての議論が始まっている。一方で、利用者（釣り人や散策者）へのルールの浸透、ルールを踏まえた取組みの普及、流域全体を俯瞰した、その他分野におけるルールづくりの議論等を今後進めていくことが求められる。

■計画評価

3－1 市民参加・環境教育とともに

成果：コロナ禍の制約の中で、多様な主体による思いと努力により、湿原とつながる機会、学びの場、参加機会が維持され、新たな取組みも生まれた。

同時に、困難な状況下を乗り越えるべく、新たな連携やコミュニケーションの形が共有され、今後の市民参加、環境教育の推進に資する成果を得ることができた。

課題：地域の多様な主体とのコミュニケーションの拡充、参加者層、行動層の拡大に向けて、多様な価値観をつなぐ連携を模索し、持続可能な取組みとすべく、新たな取組みや価値観を地域と共につくっていくことが必要である。

3－2 湿原とともに暮らす未来にむけて ～地域への貢献～

成果：湿原の保全や再生の必要性を地域と共有し、再生事業を通して地域に貢献していくための基盤となる関係主体との対話、情報交流が継続して行われ、取組みを共につくっていくための議論が進んでいる。

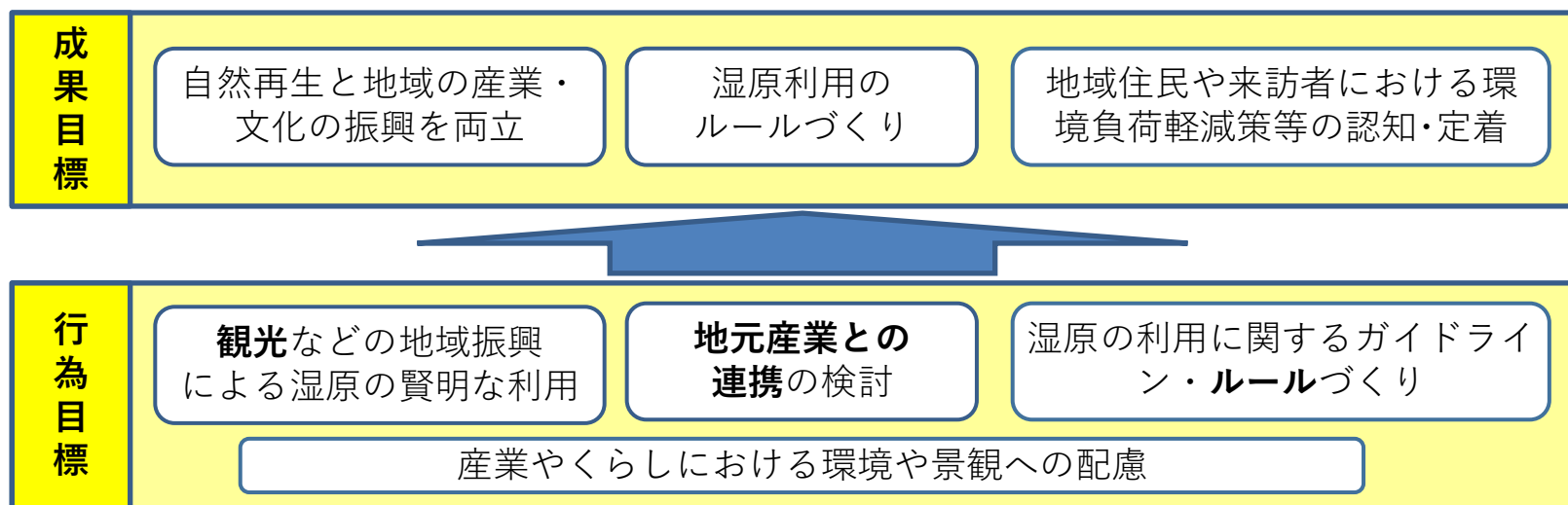
課題：湿原の保全や再生と、一次産業の持続的な発展、観光振興の両立に向けた価値観の創造、協働を地域と対話しながら共につくっていくことが必要である。

3. 地域づくり小委員会

■ 地域づくり小委員会とは

- ・ 地域産業と連携した湿原の「ワイズユース（賢明な利用）」により、釧路湿原を保全・再生することによって、将来にわたり地域産業が豊かになる取り組みを進める。
- ・ 自然再生を通じた地域づくりの推進にあたっては、3つの行為目標（実施すべき内容・手法）に沿って行う。

『第1回地域づくり小委員会資料』より抜粋



【小委員会の考え方、今後の取り組みの方向性】

地域の未来のための具体的な取り組みに向けて

- ・ 小委員会の方向性
- ・ さらなる利活用の推進に向けた方向性 等

を明確化するとともに共有し、

- ・ 一般の方の理解、共感を得やすく
- ・ 誰もが参加しやすい

地域づくりのビジョンを持って進めていく。

地域づくり小委員会事務局
釧路総合振興局
釧路開発建設部治水課
環境省

■地域づくり小委員会のこれまでの流れ（1/3）

H27年度

第1回地域づくり小委員会（出席者38名）・・・2016/01/27

- ・「自然再生推進法」および「釧路湿原自然再生全体構想」について説明（事務局）
- ・釧路湿原における10年間の自然再生事業の取り組みについて説明（事務局）
- ・釧路管内の観光の現状について説明（事務局）
- ・地域づくり小委員会の進め方・・・「湿原と持続的に関われる社会づくり」に向けて、「**行為目標**」「**成果目標**」の共有（事務局）
- ・自己紹介、意見交換（地域づくりの考え方、やってみたいこと、現状の課題など）

H28年度

第2回地域づくり小委員会（出席者27名）・・・2016/09/28

- ・参加団体の取り組み状況の報告
①釧路湿原散策ツアー（釧路観光コンベンション協会） ②地域づくり活動（タンチョウ保護研究グループ）
- ・アンケート結果の報告（事務局）
- ・地域づくり小委員会の進め方について意見交換・・・ワーキンググループに分かれて作業という提案が出る

第3回地域づくり小委員会（出席者33名）・・・2017/02/14

- ・ワークショップ実施、6グループでディスカッション
- ・「参加委員の活動内容の情報共有」（前半）、「小委員会で議論したい内容」（後半）について話し合う

H29年度

第4回地域づくり小委員会（出席者25名）・・・2018/02/13

- ・話題提供 ①鶴居村における農泊の取り組みについて（美しい村・鶴居村観光協会）
②海鳥を取りまく自然環境の保全と羽幌の地域振興の両立に向けて（竹中康進委員）
- ・アンケート、ワークショップの結果を踏まえ、今後の取り組みおよびテーマについて・今後の進め方について議論
- 今後の進め方：行為目標である「**観光**」「**産業連携**」「**ルール**」の3つに沿って取り組みを進めていく。

■地域づくり小委員会のこれまでの流れ（2/3）

H30年度 第5回地域づくり小委員会（出席者27名）・・・2018/07/02

- ・ 佐野修久委員長、平岡俊一委員長代理の退任、中村研二委員長、鈴木信委員長代理の就任
- ・ 話題提供：亀山哲委員：未利用農地の分布の定量化、水質の浄化機能
- ・ アンケート結果を報告（具体的に取り組むテーマ）
- ・ 事務局提案として「産業利用ガイドブック」の作成を説明

第6回地域づくり小委員会（出席者34名）・・・2018/10/24

- ・ 産業活用ガイドブックづくり
- ・ 今後の進め方（ガイドブック作成工程、資源さがし）
 - － ガイドブックの目的や活用方法などに対する意見
 - － 小委員会の進め方自体に対する意見

第7回地域づくり小委員会（出席者25名）・・・2019/03/20

- ・ 話題提供：鈴木信（ラムサール条約釧路会議当時の取り組みとその後）
- ・ 小委員会のアウトプットは3部構成
 - － 第1部：釧路湿原の現状（釧路湿原の資源＋釧路湿原の法規制）
 - － 第2部：他地域に見るワイズユース
 - － 第3部：釧路湿原の新たな活用と作法（活用の具体策とその作法）
- ・ 活用に向けた具体策の検討
 - － 6グループに分かれ、取り組み案の話し合いを行い発表

R01年度 第8回地域づくり小委員会（出席者23名）・・・2019/07/26

- ・ 話題提供：小林聡史（釧路公立大学教授）ラムサール条約と世界のワイズユース事例
- ・ 実施プランの進め方
 - － **委員事案、小委員会事案、事務局事案**に分けて進める
 - － 1. 「新規活用プラン」は各委員が小委員会を活用して進める
 - － 2. 小委員会の事案として「カヌーや釣りの作法・マナーづくり」を進める
 - － 3. 事務局の事案として「地域づくりビジョン」の作成を進める

第9回地域づくり小委員会（出席者28名）・・・2020/02/18

- ・ 話題提供：亀山哲（国立環境研究所）「周遊マルチパーパストレイル」の提案
- ・ 実施プランの進め方
 - － 委員会事案：カヌーガイドライン作成の進捗報告
 - － その他提案：委員からのアイデアにあった気球を上げる提案

■地域づくり小委員会のこれまでの流れ（3/3）

R02年度 第10回地域づくり小委員会（出席者33名）・・・2021/02/17

- ・ 話題提供：佐藤吉人委員「自然環境の保全・再生」「農地・農業者との両立」「地域づくりへの貢献」
- ・ カヌーガイドラインの更新（委員会事案）、活動報告書の進捗報告（事務局事案）
- ・ 委員事案報告：かわたび（開発局）・熱気球（釧路町）

R03年度 第11回地域づくり小委員会（出席者36名）・・・2022/03/22

- ・ 話題提供：櫻井一隆委員「農業と釧路湿原の保全」
- ・ 活動報告書の公開（事務局事案）
- ・ カヌーガイドライン本編の公開、ポケット版作成と広報施策（委員会事案）
- ・ 農業事業者との意見交換（委員会事案）
- ・ 委員事案報告：かわたび（開発局）

R04年度 第12回地域づくり小委員会（出席者31名）・・・2023/03/02

- ・ 話題提供：
道東ホースタウンプロジェクト 岡本氏「かわたび×うまたびプロジェクト」
北開水工コンサルタント 石黒氏「釧路湿原における地域貢献活動」
- ・ 取り組み状況報告
【小委員会事案】
 - ・ カヌーポケット版の公表、広報施策の展開
 - ・ 農業事業者との連携継続
 - ・ 自然再生事業箇所の地域づくり利活用の推進【委員事案】

R05年度 第13回地域づくり小委員会（出席者35名）・・・2023/12/01 （第39回再生普及小委員会との合同小委員会）

- ＜地域づくり小委員会＞
- ・ 取り組み状況報告
【小委員会事案】
 - ・ 農業事業者との連携継続 ・ 自然再生事業箇所の利活用の推進 ・ カヌーガイドラインの見直し【委員事案】
 - ・ 国立公園ブランドプロミスについて ・ ロングトレイル ・ かわたび×うまたび
 - ・ 釧路川トイレ設置 ・ インフラわくわくツアー
- ＜再生普及小委員会＞
- ・ 活動報告

	2015 H27	2016 H28	2017 H29	2018 H30	2019 R01	2020 R02	2021 R03	2022 R04	2023 R05	2024 R06	2025 R07	2026 R08	2027 R09	2028 R10
小委員会	第1回	第2回 第3回	第4回	第5回 第6回 第7回	第8回 第9回	第10回	第11回	第12回	第13回		全体構想 20年			
活動	小委員会 の設立	3つの行為目標に沿って進める	【行為目標】 委員事案、小委員会事案、事務局事案に分けて活動する											
			観光	マルチパーバストレイル（亀山委員）										
				かわたび連携（開発局治水課）うまたびとの連携										
				熱気球（釧路町）										
				ロングトレイル等（環境省）										
				事業箇所の利活用の推進 （事務局⇄標茶町、鶴居村）										
			ルール	R1～R2：カヌーガイドラインの更新(R3年度公開) R3：ポケット版の作成 R4：ポスターを用いた広報活動、リーフレットの作成										
				右岸堤防利活用ルール										
			産業連携	「産業利用ガイドブック」の提案、 「活動報告書」の作成（R03公開）										
				農業事業者との連携										
小委員会 での話題 提供			鶴居村 服部氏 環境省 竹中氏	国環研 亀山氏 鈴木 委員長 代理	釧路 公立大 小林氏 国環研 亀山氏	鶴居村 元亀村 佐藤氏	櫻井氏	道東ホース プロジェクト 岡本氏 北開水工 コンサル 石黒氏	標茶町地域 おこし 協力隊 伊藤氏 炭田氏 北開水工 コンサル 平澤氏					

■具体的にプランを進めるために ～「Do」を並行させて実施～

- ・ 様々な意見を具体的に進めるため、活動を「委員事案」「小委員会事案」「事務局事案」の3つの事案に分け、並行させて実施する。（R01以降から実施）

並行させて実施する3つの事案

委員事案**委員が事案を推進****■取り組み内容**

- 【観光】 釧路湿原周遊マルチパーパストレイル（R1～）
- 【観光】 かわたび連携（R1～） うまたびとの連携（R4～）
- 【観光】 気球係留フライト（R2）
- 【観光】 ロングトレイル（R5～）

小委員会事案**小委員会で事案を推進****■取り組み内容**

- 【ルール】 カヌーガイドラインの更新（R1～R4）
- 【産業連携】 農業事業者との連携（R3～）
- 【観光】 事業箇所の利活用の推進（R4～）

事務局事案**事務局主体で事案を推進****■取り組み内容**

- 【産業連携】 活動報告書（R3公開）
- ※「産業利用ガイドブック」を継承する形で実施
- 【ルール】 右岸堤防利活用ルール（R5～）

2で今年度の取り組み状況を**小委員会事案**、**委員事案**の順で報告。

3.2. 取り組み状況の報告

- 小委員会事案

- ① 農業事業者との連携
- ② 自然再生事業箇所の利用推進

- 委員事案

各機関の取り組み内容報告

小委員会事案①

■ 農業事業者との連携

○ 農業事業者と連携することで目指すこと

【協議会】： 釧路湿原周辺の農業事業者からの負荷排出量低減の協力は湿原の環境保全に直接つながる。

【農業事業者】： 取り組み内容が世間に知られることで農業事業者や生産物への信用等の高まりに寄与する。



【R06年度の実施内容】

- ・ 継続して酪農農家とヒアリングを行う。ヒアリング先は幌呂地区にある植田牧場を選定した。

○ ヒアリングの概要

実施日：2025年(令和7年) 1月24日 参加者：植田牧場(植田紘史代表)、釧路開建ほか
お聞きしたこと

- ・ 釧路湿原への認識、関りについて
- ・ 大規模な酪農経営について（最先端の技術など）
- ・ 実施されている取り組みについて（環境保全、環境教育など）
- ・ 地域の人々との関りについて



ヒアリングの様子

○ ヒアリング結果

- ・ 牧場として釧路湿原に関わっているという強い意識はないが、研修生や学生が来た時には湿原へ連れて行ったりしている。また、家族や友達と湿原を見に行ったりカヌーに乗ったりしている。
- ・ 3年前にロボット搾乳の牛舎を建てて規模を拡大した。1年前にTMRセンターを立ち上げ、増頭分の面積等を確保できるようになった。
- ・ 糞尿を畑に戻すという循環型農業を行い、全量が処理可能である。作付面積からも十分対応できているため、環境負荷に配慮している。また、糞尿を固体と液体に分離する機械を導入している。発酵熱で殺菌され、固体は敷料に使っている。
- ・ 小学校で行っているタンチョウの給餌用トウモロコシを子ども達が植えるため、畑を貸している。（環境保全活動）
- ・ 研修で行ったアメリカの牧場は、一般市民との距離が近く、酪農関係のイベントも多い。本当の意味での地域産業となっていた。農家と地域の人々がもっと身近になれるよう、今以上に地域に貢献していきたいと思っている。

○ 今後の予定

● 情報発信

- ・ ヒアリング内容を小委員会のニュースレターに掲載する。また、釧路開建SNSで発信する。
- ・ 今年度を含めたこれまでの農業事業者連携の取り組みをまとめたニュースレター特別号を作成する。

3. 2. 取り組み状況の報告

小委員会事案②

■ 自然再生事業箇所の利活用推進

【背景】

- ・ 自然再生事業箇所の整備とともにR04年度から利活用を推進するための取り組みを始めた。
- ・ 自然再生事業箇所を地域で有効に利活用できるよう、自治体と一緒にこの取り組みを推進することにした。

■ **R04年度** 標茶町：ヌマオロ地区現地視察、意見交換

鶴居村：幌呂地区現地視察、意見交換

■ **R05年度** 標茶町：ヌマオロ地区現地視察、意見交換

鶴居村：幌呂地区利活用の方向性について意見交換
(レイアウトマップ使用)



【R06年度の実施内容】

＜場所＞

- ・ 標茶町：ヌマオロ旧川復元
- ・ 鶴居村：幌呂湿原再生

＜活用を進めるための方法＞

- ・ R05までに現地視察や意見交換を行い、自治体との継続的な関係づくり、利活用に向けた方向性の意見交換を行ってきた。
- ・ 今年度も継続して具体的な利活用の方向性を作っていくために、現地視察・意見交換を実施し、作成しているレイアウトマップに反映させる。



↑ 標茶町とヌマオロ地区を
現地視察 (R05)



↑ 鶴居村と幌呂地区を
現地視察 (R04)



釧路開建が実施する自然再生事業箇所と内容

小委員会事案②

■自然再生事業箇所の利活用推進

○鶴居村との現地視察（幌呂地区湿原再生）

実施日：2024年（令和6年）10月17日

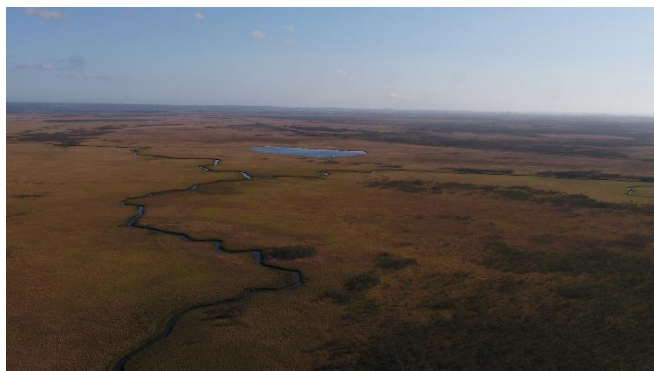
参加者：鶴居村、釧路開建ほか

今年度の視察のポイント：

- ・ 周辺の住民らが散歩などでぶらっと来たときにどのように使えるかを現地を見ながら話す。
- ・ さらに奥に行けば幌呂川との合流点で湿原中心部の開けた風景が見られることをドローンで共有する。

○鶴居村との意見交換

- ① 歩道が整備されれば近隣住民が散歩に使うかもしれない。現在も近くの人々は散歩している。
- ② 鳥の観察小屋は湿地側には目隠しを設けるようにするのが良い。
- ③ （説明を受けながらドローンの映像を見て）排水路の先の幌呂川に合流する場所（奥の方）の景色がすばらしい。排水路整備が行われた歴史とあわせて説明するなど学習としての使い方も含めて利活用する方向性は良いと思う。
- ④ 幌呂地区を案内した中学生からは観察小屋の提案箇所付近のトイレ設置と夜間ライトアップの意見があった。

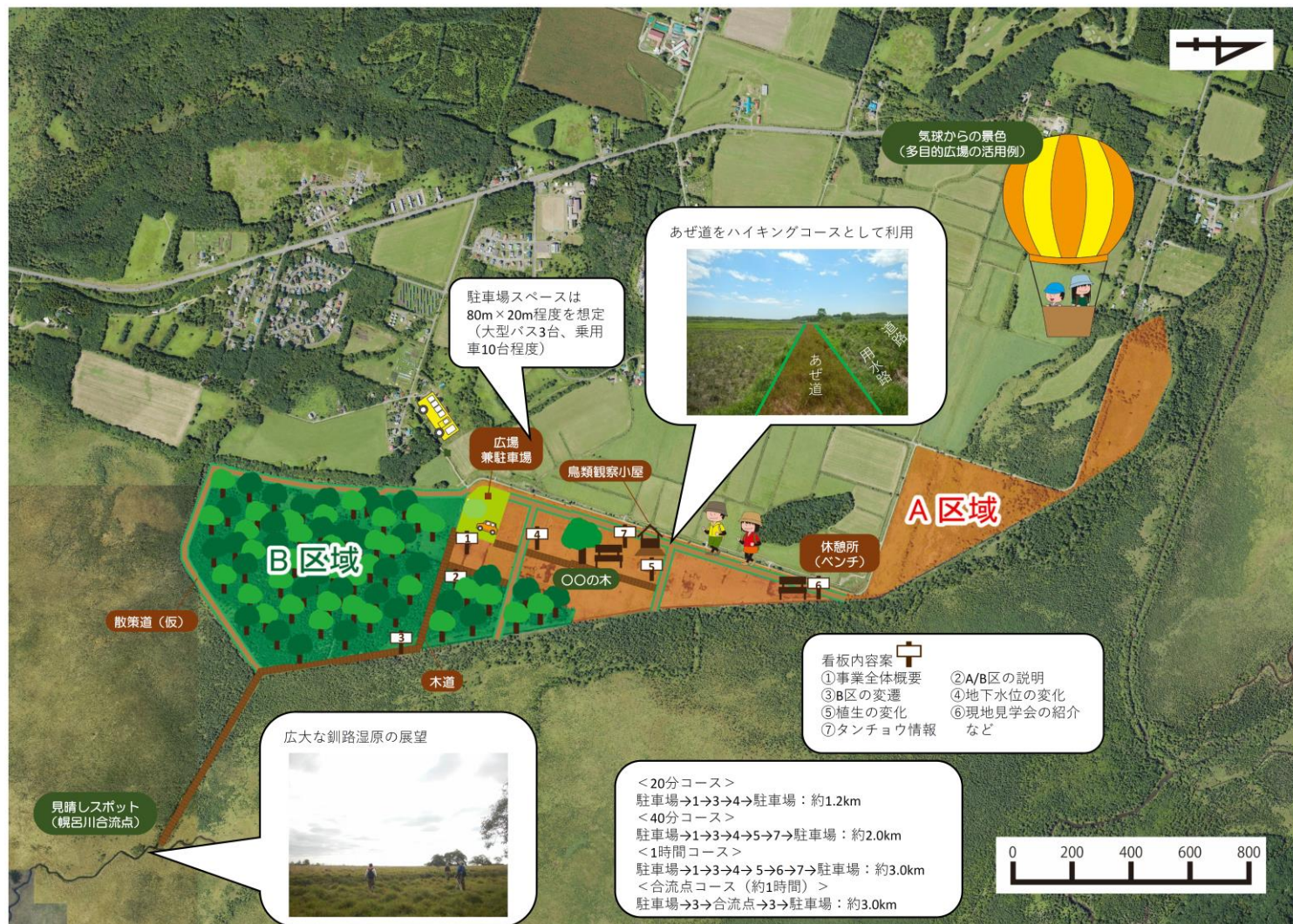


小委員会事案②

■自然再生事業箇所の利活用推進

○幌呂地区レイアウトマップ（案）作成

鶴居村との現地視察、意見交換をもとに、散策、見晴らし等をキーワードにレイアウトマップ（案）を作成。



小委員会事案②

■自然再生事業箇所の利活用推進

○標茶町との現地視察（ヌマオロ地区旧川復元）

実施日：2024年（令和6年）10月17日

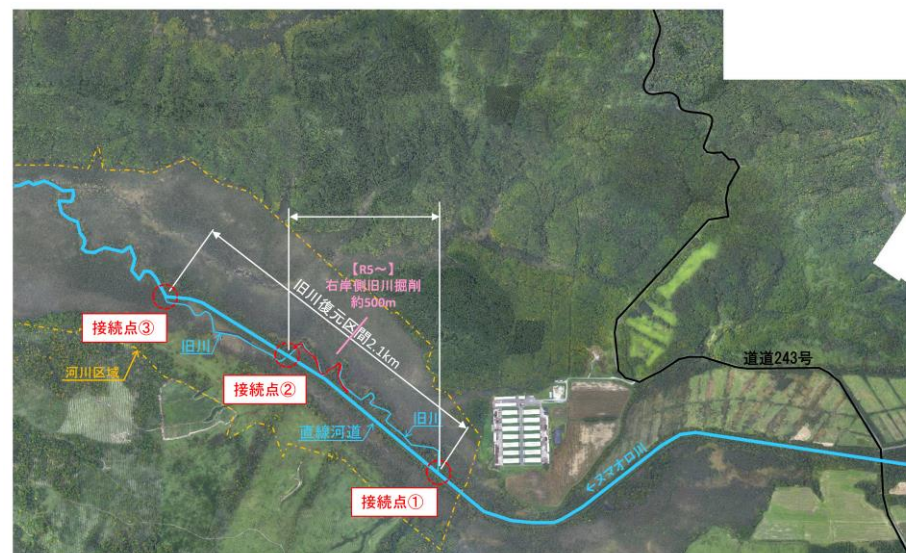
参加者：標茶町、釧路開建ほか

今年度の視察のポイント：

- ・接続点①②に設置検討中の見晴らし盛土の高さを設定するため、ドローンで空中からの景色を確認して、良い高さを話し合う。
- ・教育などの利活用について可能性を話す。

○標茶町との意見交換

- ①ドローンからの映像を参考にするとう見晴らし盛土の高さは5m程度が現実的である。
- ②現状では学校の河川に関する環境学習の場所は水辺の楽校が主であるが、ここは自然再生から学習できる現場になりより活用できる。
- ③現状を知っていると茅沼地区等の事例から変化が顕著な工事実施後5～10年間の変化が見られることになり、環境教育として伝えられる。



3. 2. 取り組み状況の報告

小委員会事案②

■自然再生事業箇所の利活用推進

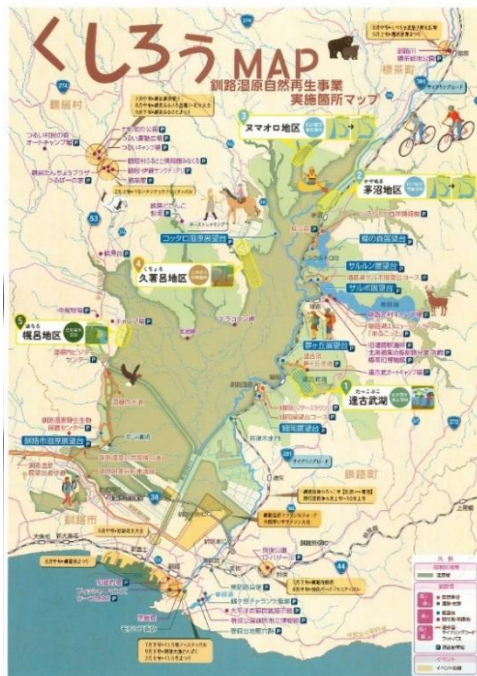
【全体マップの作成】

- ・自然再生事業の実施箇所が増えてきたことから、一連での利活用の可能性ができた。
- ・自然再生事業実施箇所がわかる全体マップを作成し、一般の人が実際に足を運んで自然再生の取り組みを詳しく知ってもらえるようにする。
- ・自然再生の努力が釧路湿原の維持に貢献していることを知ることによって来訪者に取り組みを共感してもらえる。

○全体マップ（くしろMAP）（案）作成（作業中）

表面：釧路湿原自然再生事業実施箇所を基本に、
釧路湿原周辺での観光地等も取り入れた。

裏面：自然再生事業箇所を巡る周遊コースを基本と
した。



表面



裏面

委員事案

- ・令和元年度からの各機関の取り組み内容を以下に示す。

	2019 R1	2020 R2	2021 R3	2022 R4	2023 R5	2024 R6	2025～ R7～
◆釧路開建	かわたび連携		うまたびとの連携				
◆環境省	ロングトレイル、アドベンチャートラベル						
◆振興局	アドベンチャートラベル等						
◆その他	マルチパーパストレイル(亀山委員)						
	熱気球(釧路町)			うまたび(標茶町)			
	釧路川トイレ設置 (釧路川カヌーネットワーク協会ほか)						

※うまたび、釧路川トイレ設置はR4・5小委員会での話題提供内容



ロングトレイルのご紹介

(1) 名称 **北海道東トレイル「Hokkaido East Trail (HET)」**

1. 知床（羅臼）から釧路まで、知床、阿寒摩周、釧路湿原の3つの国立公園とまちを結ぶ、総距離約410kmの長く一本に繋がった**歩く旅の道**。（オンネトー・阿寒湖畔～摩周を結ぶ自転車推奨区間を含む）
2. 3つの国立公園の自然や魅力、人々の暮らしや文化・歴史を感じながら、**数日間かけて歩いて旅することが出来る**。

(2) ロゴマーク



(3) 主な特徴

◆北海道から遠く離れたカムチャツカ半島から千島火山帯に続く、知床、屈斜路、阿寒に連なる火山地帯を横断しながら歩く。

- ①世界自然遺産知床の「**海**」
- ②斜里岳の裾野に広がる広大な「**畑作**」
- ③日本最大の屈斜路「**カルデラ**」
- ④釧路川流域の山肌に永遠と続く「**酪農**」
- ⑤日本最大の釧路「**湿原**」
- ⑥原生的景観を有する神秘的「**森**」

「6つの特色あるエリア」と「3つの海」にまたがる、総距離410kmの壮大な道。

◆長く1本に繋がった道は人々を魅了し、歩くことを目的に人々が訪れる。

(4) 広域連携

国：環境省、国土交通省（北海道開発局・北海道運輸局）
林野庁（根釧西部森林管理署・根釧東部森林管理署・網走南部森林管理署・十勝東部森林管理署）
道：北海道（釧路総合振興局・オホーツク総合振興局・根室振興局・十勝総合振興局）
関係自治体：14市町村
釧路市、弟子屈町、標茶町、中標津町、清里町、小清水町、大空町、美幌町、津別町、足寄町、羅臼町、斜里町、釧路町、鶴居村

※ロングトレイルの取り組みは2022年8月からスタート





北海道東トレイル「Hokkaido East Trail (HET)」

※2024年10月5日（土）全線開通

流水がつながり豊かな生態系、
火山が生んだ山々と
海岸断崖が織りなす雄大な景観

世界自然遺産にも登録されている知床国立公園は、火山活動や流水などによって形成された狭く雄大な景観と、野生生物の豊かさに特徴づけられます。特にヒグマやシカなどの大型哺乳類や、絶滅の恐れがある大型の猛禽類も多く生息し、それらを頂点として、様々な野生動物が相互に関係しあい、色濃く息づいています。

参考: <https://www.env.go.jp/park/shiretoko/point/index.html>

阿寒摩周国立公園

日本最大のカルデラ地形、火山・森・湖が織りなす広大な景観

北海道東部に位置する阿寒摩周国立公園の基盤は、千島火山帯の活動によってできた阿寒・屈斜路・摩周の3つのカルデラ地形です。北海道で最も歴史のある国立公園の一つで、公園区域の大部分が亜寒帯性の針葉樹林を中心とする天然林に被われ、国立公園の中でも原始的な姿を有しているといわれています。

参考: <https://www.env.go.jp/park/akan/point/index.html>

知床国立公園

釧路～羅臼350km + 阿寒・オンネトー58km

ひがし北海道を
歩く旅の道とは

ひがし北海道に計画中の歩く旅の道（トレイル）は、日本を代表する3つの国立公園をつなぎます。どこまでも広大な湿原、酪農地帯や畑作地帯。国内有数のカルデラ湖。地球の鼓動を感じる火山。多くの特徴的な山々や豊かな海など、多様な景観を楽しめます。縄文時代から北海道開拓へと続く人々の暮らしや歴史・文化があり、そこに住まう動物や人々の営みとの出会いがあります。太平洋、オホーツク海、根室海峡という三つの海を繋いで、中央に連なる火山帯を越え、特色の異なるエリアをひとつずつ数日間かけて歩きます。ひがし北海道の大きさを体感できる、全長350kmを越える、長く歩く旅ができる魅力に富んだロングトレイルです。

釧路湿原国立公園

**日本最大の湿原と
壮大な蛇行河川、それを育む森**

日本で最初のラムサール条約登録湿地であり、湿原を中心とする初の国立公園です。北海道東部を流れる釧路川とその支流を抱く日本最大の釧路湿原及び湿原を取り囲む丘陵地からなります。手つかずの広大な水平的景観はこの地の何よりの魅力です。また、国の特別天然記念物のタンチョウをはじめ多くの動植物の貴重な生息地となっています。

参考: <https://www.env.go.jp/park/kushiro/point/index.html>



「北海道東トレイル」トレイル憲章



北海道東トレイル憲章

2024年10月、「北海道東トレイル」が誕生しました。

本州とは生物相も大きく異なる北海道には、雄大で貴重な自然がいまなお多く存在します。なかでも「道東」は、釧路湿原、阿寒摩周、知床、3つの個性的な国立公園を備える特別なエリアです。

北海道東トレイルは、全長約410km。美しくも厳しい山、川、海、湖、森林や湿原を越え、道東ならではの動植物たちに出会い、脈々と続く人の営みである広大な酪農・畑作地帯を眺めながら歩くロングトレイルです。

この道は、行政機関、地域住民・事業者、そしてこの道を歩くハイカーなど、それぞれの責任と協働があって未来へ繋いでいくことが可能になります。多様で広域な連携に必要な理念を、このトレイルに関わるすべての人々と共有するために、ここに6つの憲章を定めます。

- 1.この道は、道東の多彩で多様な風景と風土を楽しむ道。
- 2.この道は、人と自然のあるべき関係を考える学びの道。
- 3.この道は、この土地の自然・歴史・文化を敬い尊ぶ道。
- 4.この道は、たぐいまれな道東の豊かさを未来へ繋ぐ道。
- 5.この道は、地域の人々とハイカーがこころを重ねる道。
- 6.この道は、ここに関わるすべての仲間が共に育てる道。

ロングトレイルは人間の営みの原点である「歩く」行為を通し、さまざまな「原点」に立ち返る旅路です。それは、自然＝[環境の原点]、風土＝[歴史の原点]、そして私＝[人間の原点]を訪ね探す旅でもあります。風のひとと土のひとが織りなす旅の舞台、「北海道東トレイル」が、人と自然の幸福な未来を指し示す、希望の道しるべになることを心より願います。



「北海道東トレイル」から期待される効果

道東の大自然と広大な大地を南北に貫く一本の旅の道・・・

北海道東トレイル「Hokkaido East Trail (HET)」



◆期待される効果（狙い）

①新たな観光ビジネスの創出

旅行会社によるトレイルツアーなど

例：知床、阿寒摩周、釧路湿原、3つの国立公園を歩く旅

②新たな宿泊サービスの創出

宿泊得点として出発地点やゴール地点まで送迎など

例：歩く人を対象とした送迎付き宿泊パック

③新たな観光コンテンツの創出

JR（電車）やサイクリング、カヌー等を組み合わせた、新コンテンツが生まれる

④滞在の長期化に繋がる

歩くスピードは遅く、数日間かけて同様のエリアを歩く。
住民との交流を楽しむ

⑤まちのイメージアップ、交流・関係人口増加に繋がる

まちの魅力を発見、地域住民と旅人（ハイカー）の交流

⑥移住やリピーターに繋がる

地域の方とハイカーの交流により地域のファンが増加

◆具体的なメリット

- ・ JR釧網線の利用者増加
- ・ 道の駅、宿泊施設や温泉利用の増加
- ・ 地域の飲食店や商店、コンビニ等の利用者増加

◆運営上の注意点

- ・ 利用上の注意喚起を徹底
クマ対策
畑や牧草地など私有地への侵入対策
- ・ トレイルに関する情報一元化・情報発信
クマ出没情報、通行止め情報等
- ・ 観光情報発信
地域観光情報の適正配信

委員事案

鶴居村釧路湿原観光コンテンツ創出事業

【背景】

環境省の「令和6年度国立公園アドベンチャートラベル展開事業」を活用し、鶴居村釧路湿原観光コンテンツ創出協議会（事務局：鶴居村）が関係機関と連携して事業を実施する。

【概要】

釧路湿原の核心部にある宮島岬エリアの優れた自然環境の持続的保全と適正利用を両立させ、利用者の満足度と安全性を高める取組を実施する。

【具体的取組み】

宮島岬エリアは、これまで利用ルールが明確でなくガイドネットワークが構築されていなかったために、せっかくの素晴らしい自然が地域や来訪者に認知されてこなかった。

- ・ 専門家や関係機関等を招いたプロジェクト会議、現地踏査を実施。
- ・ ガイド付き限定で利用できるルールを検討中。
- ・ 入域料を徴収し歩道等の維持管理に充てることを検討中。

「宮島岬エリア」について

- ・ 釧路湿原の核心部に突き出した岬のような地形で、岬の先端からは壮大なスケールの湿原の中を川がゆったりと蛇行する景観を堪能することができ、数ある釧路湿原の展望スポットの中でも、その眺望は格別。
- ・ 岬周辺には湧き水が多く生物のゆりかごになっている湿原を涵養している様子が見られ、「湿原のはじまり」を実感することができる。



宮島岬から釧路湿原を望む

委員事案

ATに係る釧路総合振興局の取組（令和6年度）

1. アドベンチャートラベル（AT）コンテンツの充実と魅力発信

（1）首都圏・海外向け発信力の強化

- ① 釧路管内AT関連事業者冊子（日本語・英語）の更新・増刷
- ② 東京・大阪での管内ATのPR

（2）ATガイド・観光関連団体によるネットワーク構築とガイドの質向上

- ・ ATガイドを招聘したスルーガイドセミナー及び育成講座

2. ATとの連携など食の魅力の拡大

（1）ATの食文化体験イベントの開催

- ・ 星空や夕日を見ながら「くしろのお酒」を楽しむイベント開催

（2）AT・観光ルート×チーズ・ソフトクリームマップの連携

委員事案

1. アドベンチャートラベル（AT）コンテンツの充実と魅力発信

（1）首都圏・海外向け発信力の強化



① 釧路管内AT関連事業者冊子（日本語・英語）の更新・増刷

- ・「くしろ冒険地図」：
くしろ地域のAT（アウトドアガイド）を網羅したマップ
・72事業者（更新後）
・日本語・英語各9,000部増刷
・道東道やロングトレイル等追記

② 東京・大阪での管内ATのPR

1. 東京・・・「ツーリズムEXPOジャパン2024」への出展
（根室振興局、釧路観光コンベンション協会、
摩周・標茶・鶴居ポーターション協議会との共同出展）

日程：9月26～29日、場所：東京ビッグサイト

取組概要：首都圏旅行業者等（25社程度）との商談
一般客への釧路観光PR

2. 大阪・・・「Hokkaido Love! 祭」への出展

日程：11月2～3日、場所：梅田駅うめきたSHIPホール

取組概要：一般客への釧路観光PR

ワークショップ（アウトドアガイド(鏑野目氏)、
地域おこし協力隊（アーネスト・モク氏によるクイズ大会））でくしろATのPR

（大阪の旅行エージェントへのセールスコールも実施(11/1)）



※Hokkaido Love! 祭会場風景



※EXPO会場風景

委員事案

1. アドベンチャートラベル（AT）コンテンツの充実と魅力発信 (2) ATガイド・観光関連団体によるネットワーク構築とガイドの質向上

A Tガイドを招聘したA Tスルーガイドセミナー及び育成講座

1. A Tスルーガイドセミナー

講座内容：A Tにおけるガイドの役割と重要性

日 程：1月24日（金）、会場：釧路市観光国際交流センター 3階 研修室

講 師：馬上 千恵氏（ATガイド、英語通訳案内士）

主 催：釧路観光コンベンション協会、釧路総合振興局、根室振興局

参加者：スルーガイドなどAT関係者またはATに興味のある方 50名程度参加

2. A Tスルーガイド育成講座 入門編

内 容：A Tスルーガイドを目指す方を限定して対象とした講習及びフィールドワーク（釧路市内）

日 程：1月25日（金） 午前 座学、午後 フィールドワーク

講 師：馬上 千恵氏（ATガイド、英語通訳案内士）

主 催：釧路観光コンベンション協会、釧路総合振興局、根室振興局
（10名を限定して実施）

参加者：英語力を有し、スルーガイドを目指す方

委員事案

1. アドベンチャートラベル（AT）コンテンツの充実と魅力発信

（2）ATガイド・観光関連団体によるネットワーク構築とガイドの質向上

令和6年度 アドベンチャートラベル推進派遣事業
ATハンズオン支援事業（専門家派遣）
アドベンチャートラベルセミナー
「ATスルーガイドとは」

2023年にアドベンチャートラベル・ワールドサミット北海道・日本（ATWS2023）がアジアで初めて実施開催され、海外から北海道へのアドベンチャートラベル（AT）における注目が集まっています。本セミナーでは、M's Englishの英語通訳案内士・森林インストラクター・ATガイド 馬上 千恵氏を講師に迎え、アドベンチャートラベルにおけるATスルーガイドの役割と重要性について講演いただきます。

- 講座内容 アドベンチャートラベル（AT）におけるATスルーガイドの役割と重要性
- 講師 M's English
英語通訳案内士
森林インストラクター・ATガイド 馬上 千恵氏
- 会場 釧路市観光国際交流センター 3階 研修室 <釧路市幸町3-3>
- 日程 令和7年1月24日(金)
- 時間 13:30開場 14:00開講 15:30終了
- 募集人員 50名様
- 主催 (一社) 釧路観光コンベンション協会・釧路総合振興局・根室振興局
- 参加費無料

講師 PROFILE



M's English 馬上 千恵氏
英語通訳案内士・森林インストラクター・ATガイド

福島県生まれ。帯広畜産大学卒業後、北海道森林管理局に8年勤務。オーストラリア留学を経て英語講師となり、これまでに知床半島、稚内市、厚沢部町に住み、英語の自然ガイドやインバウンド向けツアー企画などを行う。2020年から札幌市拠点。全国のカイロ養成講座や英語接客セミナーを実施し、ATWS2023では、PSAスルーガイド、DOAスルーガイドなど勤める。GUIDE of the year2024受賞。

参加申込・お問合せは、(一社)釧路観光コンベンション協会 細川まで
Tel 0154-31-1993 Fax 0154-31-1994 E-Mail hoso@kushiro-kankou.or.jp
※取得した個人情報は、本講座のみで使用致します。

「ATスルーガイド育成講座 入門編」

- 募集対象者 ATスルーガイドを目指す方で、英語力のある方
- 募集人員 10名様
- 講師 M's English
英語通訳案内士・森林インストラクター・ATガイド 馬上 千恵氏
- 概要 講習・フィールドワーク
- 集合/解散 釧路市観光国際交流センター 3階 研修室
(釧路市幸町3-3)
- 日程 令和7年1月25日(土)
- 時間 午前の部 10:00~12:00 座学
昼食 ※各自持参・負担
午後の部 13:00~15:00 フィールドワーク
- 内容 座 学: ATスルーガイドの仕事内容、具体的な役割等
フィールドワーク: 地元ガイドさんに案内していただきながら、ATスルーガイドの役割を確認、実践等
- 参加費無料
- 主催 (一社) 釧路観光コンベンション協会・釧路総合振興局・根室振興局

講師 PROFILE



M's English 馬上 千恵氏
英語通訳案内士・森林インストラクター・ATガイド

福島県生まれ。帯広畜産大学卒業後、北海道森林管理局に8年勤務。オーストラリア留学を経て英語講師となり、これまでに知床半島、稚内市、厚沢部町に住み、英語の自然ガイドやインバウンド向けツアー企画などを行う。2020年から札幌市拠点。全国のカイロ養成講座や英語接客セミナーを実施し、ATWS2023では、PSAスルーガイド、DOAスルーガイドなど勤める。GUIDE of the year2024受賞。

※ATスルーガイドセミナーに係るチラシ

※ATスルーガイド育成講座に係るチラシ

委員事案

2. ATとの連携など食の魅力の拡大



※振興局チラシ



※振興局出店ブース

(1) ATの食文化体験イベントの開催

- ・ 星空や夕日を見ながら「くしろのお酒」を楽しむイベント開催
「クラフトビアリバーサイド」に
「くしろ地域の色々なお酒」ブースの出店
日 程：7月12～15日
会 場：釧路フィッシャーワーフMOO/EGG釧路川側
取組内容：
 - ・ 釧路管内で製造された酒類及び管内の原料を使用した酒類(ウィスキー、日本酒、焼酎、ワイン、ラフトビール(7社13商品)の販売
 - ・ 酒に合うくしろ地域の食(おつまみ)の販売(3社3商品)
 - ・ くしろ地域の食やお酒を紹介するリーフレットによる食文化の啓発

(2) AT・観光ルート×チーズ・ソフトクリームマップの連携

- ・ 「根釧チーズマップ」「根釧ソフトクリームマップ」：
管内の乳製品取扱業者と連携した根釧の包括的なマップ
- ・ 「くしろ冒険地図」にQRコードを添付
- ・ AT先進国である英語圏に向け英語版のマップを作成中



※チーズマップ



※ソフトクリームマップ

委員事案

■自然再生事業箇所の利活用推進 うまたびとの連携＜実施済み＞

○釧路湿原右岸堤防ホーストレッキング試歩会

- ・釧路川における「かわたび×うまたび」・「かわまち」利活用検討に向けた釧路湿原右岸堤防のホーストレッキング試歩会

主催：標茶町、鶴居村、道東ホースタウン推進協議会

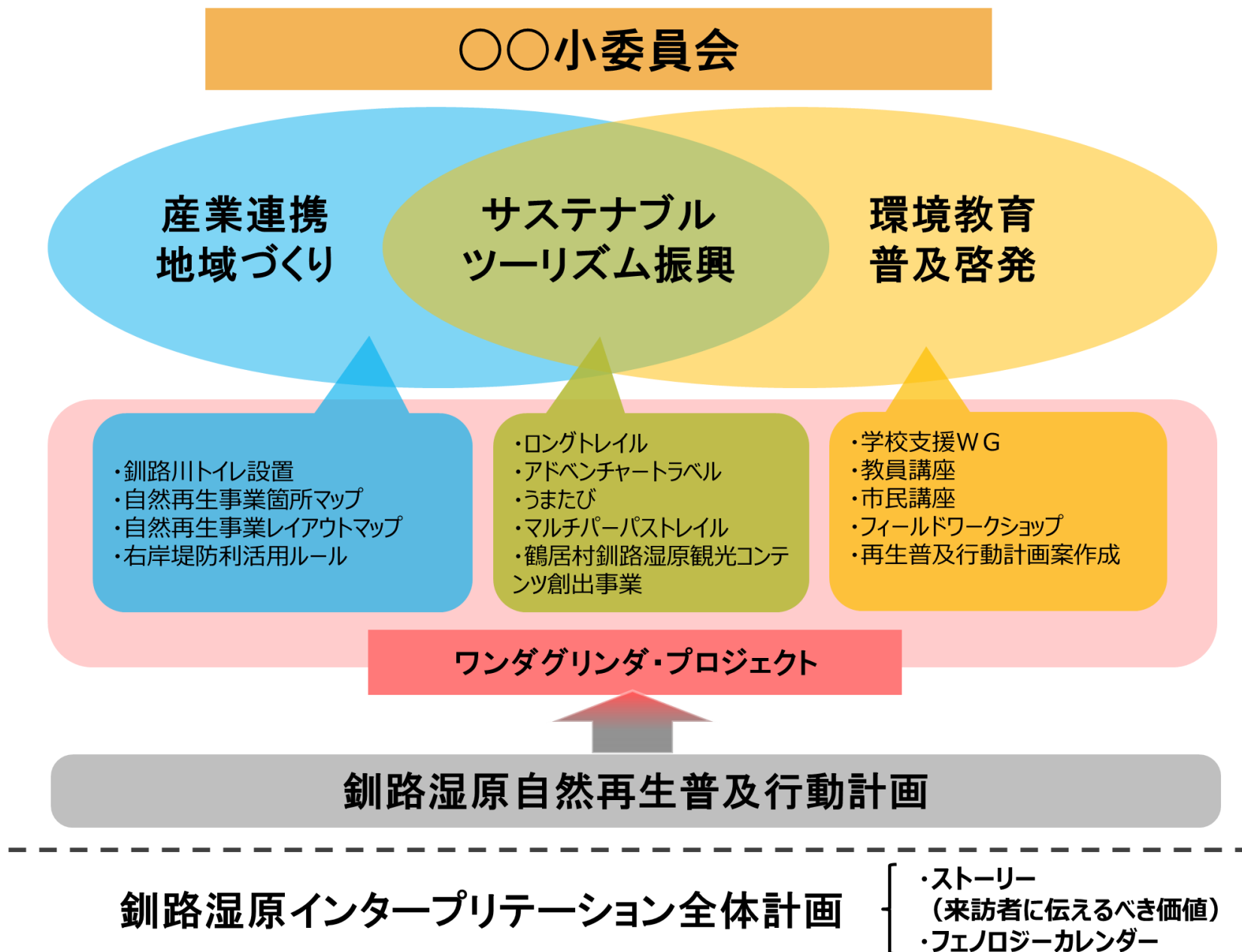
実施日：2024年（令和6年）10月16日

実施場所：釧路湿原右岸堤防（横堤）～温根内

参加者：標茶町、鶴居村、釧路自然環境事務所、釧路総合振興局、自然再生協議会地域づくり小委員会



4. 総合討論



〇〇小委員会

名称案1：湿原と地域の未来小委員会

「環境教育・普及啓発」を担ってきた再生普及小委員会と「産業提携・地域づくり」を担ってきた地域づくり小委員会が連携することとなった。持続的に自然環境を保全し、また活用を図ることで、湿原を介して地域がつながる未来図を描く。

名称案2：ワイズユース小委員会

ラムサール条約湿地国内第1号の釧路湿原。ラムサール条約では、地域の人々の生業や生活とバランスのとれた保全を進めるために、湿地の「賢明な利用(Wise use: ワイズユース)」を提唱している。2つの小委員会が合わさることで連携が深まるツーリズムの分野を見据え、改めてこのキーワードを名称に入れたい。

名称案3：再生普及・地域づくり小委員会

分かりやすさを重視し、旧小委員会の名称を合わせたもの。

第 4 期釧路湿原自然再生普及行動計画の評価について（案）

第 4 期行動計画期間（2020 年度～2024 年度）（以下、計画期間）における取組みの評価を以下のように行う。

評価方法

第 4 期釧路湿原自然再生普及行動計画（以下、第 4 期計画）で示される、「3-1 市民参加・環境教育とともに」の普及・拡大に向けた 3 つの項目（以下、3-1 ①～③）における取組み状況、「3-2 湿原とともに暮らす未来に向けて～地域への貢献」の推進に向けた取組みの指針（以下、3-2 取組みの指針）について、ABC 評価を行う。

3-1①～③および 3-2 取組みの指針の評価にあたっては、取組みの実施状況、期待される成果に対する ABC 評価を行い、これらを踏まえて評価を行う。

上記評価を踏まえて、「3-1 市民参加・環境教育とともに」、「3-2 湿原とともに暮らす未来に向けて～地域への貢献」について、それぞれ定性的に評価を行う。

○ 3-1 ①～③

- ①湿原を身近に感じる～人々が湿原とつながる
- ②湿原と地域に学ぶ～学校や地域での学びの幅を広げる
- ③湿原のために行動する～保全や再生に関わる人・機会を増やす～

○ 3-2 取組みの指針

- （１）一次産業とのつながりをひろげる
- （２）観光分野との連携をすすめる
- （３）湿原のワイズ・ユースに向けたルールの普及

○ A B C 評価の定義

- A) 十分な取組みの成果が得られた
- B) 課題があるものの一定の成果が得られた
- C) 取組みの充実が望まれる

評価結果

	A	B	C
3-1 ①	○	—	—
3-1 ②	○	—	—
3-1 ③	—	○	—
3-2 (1)		○	—
3-2 (2)	○	—	—
3-2 (3)	—	○	—

取組みの評価

3-1 市民参加・環境教育とともに ① 湿原を身近に感じる ～人々が湿原とつながる～

取組みの指針

- (1) 湿原にふれる機会をひろげる
- (2) さまざまな分野の取組みとつながる
- (3) より多くの人に湿原の情報をとどける

〈取組みの実施状況〉

○ホームページ・メールニュースでの情報発信、イベントでの PR (継続)

- ・ HP アクセス数：普及ポータル 4253 セッション（令和 5 年度）【傾向：増加】
学校支援ポータル 3262 セッション（令和 5 年度）【傾向：増加後、微減】
- ・ メールニュース：登録者 286 アドレス（令和 6 年度）【傾向：横ばい】
配信数 187 回（令和 2 年度～5 年度）行事情報を中心に多様な情報を配信
- ・ 企画展示開催数：延べ 9 施設で 26 回実施（令和 2 年度～5 年度）
自然再生事業に係る広報、ワンダグリンド登録団体と連携した普及等実施

○ホームページ掲載情報の充実（第 4 期より）

- ・ 普及ポータルサイトにおける主な追加情報
ワンダグリンド・プロジェクト参加団体の紹介（一覧・45 団体・個人の紹介ページ作成）
釧路市中央図書館への資料収蔵の案内（トップページでの案内、収蔵資料掲載）
現地見学会 取組み報告・動画掲載（各年度行事終了後に実施内容を掲載）
- ・ 学校支援ポータルサイトにおける主な追加情報
映像資料（6 種の動画掲載ページ作成、52 種の動画掲載）
教員研修講座（5 講座の実施記録を追加掲載）
やってみよう！ジュニア研究（6 校、児童 197 名の学習成果を掲載）
これまでの支援事例（学習のフォローアップ 23 件、フィールド学習の支援 14 件、モデル授業の実施 17 件の実施概要を掲載）

○ワンダグリンド・プロジェクト登録主体による多様な取組み (継続)

- ・ 登録主体概要：56 主体が参加（令和 6 年度）
個人、企業、NPO、行政、学校等多様な主体が参加
54 主体が 5 年以上継続参加、計画期間中に 4 主体が新たに参加
- ・ 取組み概要：情報発信 28 主体、学習活動 14 主体ほか、清掃・調査・駆除活動等多様な活動

○ワンダグリンド・プロジェクト参加団体とオフィスが連携した取組み（第 4 期に拡充）

- ・ 行事出展、施設展示 12 回（令和 2 年度～5 年度）
- ・ 湿原学習の共同での支援 18 回（令和 2 年度～5 年度）

○湿原学習に取り組む児童からの発信（第4期より）

- ・研究発表ボードの企画展示：延べ9施設にて20回実施（令和2年度～令和5年度）
- ・釧路湿原サイエンスフェア研究発表会（協力事業）：発表児童27名、聴講者約150名（令和4年度、令和5年度）

○図書館との連携（第4期より）

- ・釧路湿原自然再生協議会および各小委員会事務局発行資料の収蔵
釧路市中央図書館 56 種類、標茶町図書館 25 種類、釧路短期大学附属図書室 25 種類

〈「期待される成果」の評価〉

- 協議会構成員やワンダグリンド・プロジェクトの活動をとおして、釧路湿原とつながる情報発信が継続的になされる。【評価：A】
《評価の理由》ホームページやメールニュース、行事出展等を通じた情報発信を継続しておこなったほか、映像資料の活用、ホームページや行事を通じた湿原学習に係る情報の発信、図書館との連携等、様々な手法を通して多様な情報発信を行った。
- ワンダグリンド・プロジェクトの活動に、新たな広がりや発展が見られる。【評価：A】
《評価の理由》参加主体数は微減となっているものの、コロナ禍において活動が制約される中、各主体により感染拡大防止を考慮した取組みが行われたほか、オフィスと連携した展示の企画、湿原学習支援、講座の実施等が活発に行われた。
- 新たな分野から協議会との連携・協力が得られる。【評価：A】
《評価の理由》学校支援の取組みにおける教育機関や社会教育施設等との連携、地域づくり小委員会における釧路湿原のワイズユースの事例共有等、教育分野や観光分野との積極的な連携が行われた。

〈3-1 ①の評価〉

評価 A

総評 コロナ禍においても各主体が工夫して取組みの継続が試みられたほか、多様な媒体、手法を用いた情報発信、主体間の連携が行われた。また、期待される成果について、いずれも十分な取組み成果が得られた。

② 湿原と地域に学ぶ ～学校や地域での学びの幅を広げる～

取組みの指針

- (1) 教員・指導者が学ぶ機会をひろげる
- (2) 学びに関わる人をつなぐ
- (3) 湿原の多面的な価値の学びにむけて

〈取組みの実施状況〉

○教員研修講座、フィールドワークショップの企画実施（継続）

- ・教員研修講座 5 件（うち 2 件オンライン）実施、75 名参加（令和 2 年度から令和 5 年度）
- ・フィールドワークショップ 5 件実施、49 名参加（令和 2 年度から令和 5 年度）

○ビジターセンター等施設、オフィスによる学習支援（継続）

- ・55 校、延べ 194 回、4,688 人に対応（令和 2 年度から令和 5 年度）
- ・コロナ禍で対応数が減少したものの、コロナ禍以前の水準まで増加
- ・55 校中 17 校（約 3 割）が釧路管外および道内から来訪

○フィールド学習のコーディネイト（第 4 期に拡充）

- ・モデル授業実施校 7 校、延べ 29 回実施、822 人参加（令和 2 年度から令和 5 年度）
- ・コロナ禍においても、プログラムの工夫、学校との調整を図り、実施全 7 校中 6 校が各校での取組み開始から継続して実施
- ・訪問フィールドおよび学習内容の提案、参考資料の作成・提供、講師・施設等との調整、教員へのフィールド事前案内、当日対応等実施

○施設、団体、学校と連携した湿原学習の推進（第 4 期から）

- ・ワンダグリンド・プロジェクト登録団体・個人と共同した学習支援の実施 18 件
- ・社会教育施設等と連携した湿原学習支援：フィールド学習支援 11 件、映像資料 32 種作成、学習とりまとめ・成果発表での訪問・助言 13 件、学習成果企画展示 18 件
- ・湿原学習実施校の教員と社会教育施設・団体等との情報交換会 2 回実施、5 校から教員 11 名、団体等 8 主体から、20 名参加

○教育分野における自然再生事業地の活用（第 4 期に拡充）

- ・11 主体、延べ 43 回、759 名が訪問（令和 2 年度から令和 5 年度）

○湿原の多面的な価値を体感する行事企画（第 4 期から）

- ・市民講座：一般市民を対象に、湿原の保全や再生の歴史、湿原の機能を座学とフィールドワークを通して体感。延べ 4 回、46 名参加、第 1 回から第 3 回講座については、3 回連続講座として実施。（属性：50 歳未満 35%・50 代以上 65%、協議会事務局主催行事参加経験を含め 65% が初めての参加）（令和 2 年度から令和 5 年度）

- ・水循環小委員会（現地見学会）：同小委員会で得られた知見を体感する機会として実施。延べ3回、42名（属性：50歳未満7%、・50代以上93%、協議会事務局主催行事参加経験を含め33%が初めての参加）（令和2年度から令和5年度）

〈「期待される成果」の評価〉

- 教員や社会教育を担う人々に湿原の価値が認識される【評価：A】

《評価の理由》教科と連動した探求学習の題材として、釧路湿原の教育的な価値について教育関係者から高い評価を得ているほか、児童の探求のプロセス、学内・学外での発表会や展示会を通じた多様な主体の連携、情報発信により、教員や社会教育を担う人々に湿原の価値の認識が進んだ。

- 湿原に関する学習の機会が増加する【評価：B】

《評価の理由》コロナ禍において多くの行事が中止や規模の（時間、内容、定員）縮小となり、計画期間において学習機会は減少した。一方でオンラインや映像資料などを通じた多様な媒体を活用した学習機会が新たに形づくられたほか、フィールドプログラムにおける多様な工夫を通して、少人数による質の高い学習機会を提供することができた。

- 学校、NPO、専門家、地域産業などの連携が進み、新たな学びの機会が形成される

【評価：A】

《評価の理由》探求学習支援を通じた多様な主体の連携が進み、フィールド学習でのレクチャー、児童の探求プロセス、学内・学外での発表会における児童への助言等、多様な視点から児童の学びを支え、児童の成果を価値づける機会が形成された。

- 湿原が地域にもたらす様々な機能や価値が、今よりも活用され、湿原に関する理解が深まる

【評価：A】

《評価の理由》釧路湿原を題材とした探求学習の広がり、児童による地域への発信、市民講座による裾野拡大、水循環小委員会で得られた知見を体感する勉強会等の取組みが新たに活発に行われた。また、太陽光パネルと湿原保全の課題・議論を通して、市民の湿原への理解が広まりつつある。

〈3-1 ②の評価〉

評価 A

総評 コロナ禍により学習機会の減少が生じたものの、多様な主体の連携、取組みの工夫を通して、コロナ禍において質を高めた学習機会の企画、多様な媒体を活用した学習機会が生まれた。また、期待される成果について、一部課題を有したものの、コロナ禍における状況を踏まえると、十分な取組み成果が得られた。

③ 湿原のために行動する ～保全や再生に関わる人・機会を増やす～

取組みの指針

- (1) 新たな活動・参加機会づくりをみちびく
- (2) 参加機会・方法を地域に幅広くとどける
- (3) 地域の人々が湿原を見まもる
- (4) 協議会への参加をひろげる

〈取組みの実施状況〉

○協力施設、団体、学校と連携した湿原学習の推進（第4期から）《再掲》

- ・釧路湿原を題材とした探求学習支援を通して、学校、社会教育施設、教育委員会等と湿原との接点が新たに形づくられ、取組みの継続に向けた連携の輪が広がりつつある。

○地域づくり小委員会における自然再生事業箇所・利活用の取組み（第4期から）

- ・標茶町と連携したヌマオロ地区自然再生事業地利活用の検討：現地視察、意見交換
- ・鶴居村と連携した幌呂地区湿原再生事業地利活用の検討：現地視察、方向性について意見交換

○ボランティア登録制度の運用・広報、他事業との交流（継続）（令和2年度～令和6年度）

- ・小委員会事務局が運営する4つのボランティア登録制度の登録者延べ1,214名（計画期間新規登録者137名（11%）、4年以上継続参加者164名（14%））
- ・登録者の99%が流域市町村からの参加者
- ・活動概要：4つのボランティア活動で延べガイド84回、活動124回（外来種防除101回、育林・植樹14回、学習9回）、観察・報告等45回の取組みを実施
- ・ワンダグリンダニュース、各小委員会事務局による広報
- ・現地見学会、フィールドワークショップへの登録ボランティア参加による双方の活動の活性化（ボランティア学習機会、ボランティア制度を通した普及機会の充実）

○自然再生事業地 現地見学会の実施（継続）

- ・7事業地において20回実施、延べ338人が参加（令和2年度～令和5年度）
- ・50歳未満の参加者31%、流域市町村外（道内・道外）からの参加者21%（令和2年度～令和5年度）
- ・該当行事へ初めて参加した参加者49%（令和2年度～令和5年度）
- ・協議会主催行事を含め初めての参加32%（令和3年度～令和5年度）

○フィールドワークショップの実施（継続）《再掲》

- ・再生普及小委員会、ワンダグリンダ・プロジェクト登録団体・個人を対象に、湿原の機能、湿原の現在の様子を知り再生事業の意味、成果を体感する機会を継続的に企画。参加主体の学習機会づくり、参加者による普及を目的に実施。

○市民講座、水循環小委員会主催行事の実施（第4期から）《再掲》

- ・市民講座：一般市民を対象として、湿原の保全の歴史や再生事業の背景、湿原の機能や現在の様子を体感する機会として実施。講座への参加を通してワンダグリンド・プロジェクトへの参加および連携した活動、学生の授業への活用などの展開も見られた。
- ・水循環小委員会主催行事：同委員会で得られた知見を体感する機会として実施。

○小委員会、協議会の取組み（継続）

- ・参加委員 146 名（令和 5 年度）【傾向：微増】
- ・新規登録者 23 名、2 団体（令和 2 年度～令和 5 年度）
個人：コンサルタント会社所属（釧路町 1 名、札幌 3 名、帯広 1 名）、大学教授等（北海道教育大学 1 名、北大 4 名、九大 3 名）、シンクタンク所属（札幌 3 名）、大学研究所所属（京都 1 名）、漁業関連公社所属（札幌 1 名）、設備会社所属（釧路市 1 名）、ほか個人 4 名
団体：土木会社（標茶町）、大学研究会（東京）、
- ・生態系評価ワーキンググループ
釧路湿原周辺における再生可能エネルギー事業に関する提言（令和 5 年）：釧路市長に提出、自然再生協議会ポータルサイトへの掲載
太陽光発電事業計画策定にあたって配慮すべき希少種の生息地について（令和 5 年）：WEB マップ、希少種・法規制に係る紹介等の自然再生協議会ポータルサイトへの掲載
- ・湿原再生小委員会
第 3 期 達古武湖自然再生事業実施計画の策定（令和 5 年度）
- ・河川環境再生小委員会
釧路湿原自然再生事業 釧路川支川魚類生息環境の再生実施計画の策定（令和 2 年度）
釧路川茅沼地区の旧川復元―自然再生事業における目標設定からモニタリングまでの技術資料―の公開（令和 5 年度）
- ・森林再生小委員会
釧路湿原達古武地域 再生事業実施計画 付録の追記（令和 2 年度）
- ・水循環小委員会
釧路湿原の水循環―現地観測とシミュレーションによる釧路湿原の水と物質の移動形態の解明―の公開（令和 3 年度）
- ・再生普及小委員会
小委員会事務局が実施する市民参加の取組みの実施状況および共通アンケートとりまとめ、実施報告の普及ポータルサイトへの掲載・広報（令和 2 年度～令和 5 年度）
- ・地域づくり小委員会
釧路湿原自然再生協議会地域づくり小委員会活動報告書(中間報告)～ワイズユースを目指して～の公開（令和 3 年度）
釧路川保全と利用のカヌーガイドラインについて（改訂版）の発行・普及（令和 3 年度）
釧路川カヌーネットワークと連携した釧路川入川届の普及（令和 4 年度）

〈「期待される成果」の評価〉

- 湿原の保全や再生、地域づくりの取組みに、学生・若者、長期滞在者、海外からの来訪者等の参加が得られる【評価：B】

《評価の理由》コロナ禍により行事規模の縮小を余儀なくされ、また海外からの来訪者の参加は得られなかったものの、各小委員会主催現地見学会等に学生、10代から30代の参加者、長期滞在者の参加が得られた。

- 湿原の保全や再生、地域づくりにつながる活動が生まれる【評価：A】

《評価の理由》第4期計画期間より、河川環境再生小委員会においては、釧路自然保護協会が主体となり実施計画が策定され、地域の多様な主体が連携した取組みが進められた。また、再生普及小委員会においては、学校や地域と連携した湿原学習支援の仕組みづくりを進め、モデル授業として実施してきた5校での定着が見られたほか、地域づくり小委員会の取組みにおいて、市町村と連携した自然再生事業地の活用に向けた議論が進んでいる。また、第4期計画期間に顕在化した湿原における太陽光発電事業の課題に対して、協議会として取組みに賛同し、提言の公開、関連資料の協議会ポータルサイトへの掲載、市民団体主催シンポジウムへの共催など、取組みの推進に貢献している。

- 湿原の保全や再生、それらと関わる地域づくりに取り組む人々が協議会に参画する【評価：B】

《評価の理由》流域内での保全や再生、地域づくりに取り組む主体の参加は少数であったものの、大学、コンサルタント会社、研究機関、土木会社等、地域内外の多様な主体が協議会に参加登録を行った。また、地域づくり小委員会の取組みにおいて、多様な事例の共有、協議会と協働した取組みの議論が進んでいる。

〈3-1 ③の評価〉

評価 B

総評 コロナ禍も一因となり、連携の促進、新たな参加機会づくり、行動層の拡大に課題が残った。一方で、これまで行われてきた参加機会は多様な主体の努力により維持され、新たな取組みや連携も生まれた。期待される成果については、参加者層の拡大に課題を有したものの、一定の成果が得られた。

3-2 湿原とともに暮らす未来にむけて ～地域への貢献～

(1) 一次産業とのつながりをひろげる

〈取組みの実施状況〉

○地域づくり小委員会の取組み（取組みの拡充）《一部再掲》

- ・地域づくり小委員会活動報告書の作成・公開：小委員会の中間成果の取りまとめ、共有
- ・情報共有（話題提供）：委員からの提案・情報共有
- ・農業事業者と連携した自然再生見学会の開催：水循環小委員会現地見学会において、環境に配慮した農業生産法人の活動や流域の取組みの重要性（土砂や栄養分の流入抑制）を学ぶ企画を実施
- ・農業事業者との意見交換・取組みのPR：標茶西地区農地・保全隊、JA 阿寒青年部、株式会社伊藤デイリーとの意見交換、X およびニュースレター特別号において農業事業者の取組みのPR

○河川環境再生小委員会の取組み（4期から）

- ・釧路川支川魚類生息環境の再生事業において、対象流域の酪農家に理解を得て事業を進めており、魚道づくりへの参加も得られている。

〈「期待される成果」の評価〉

- 一次産業関係者の協議会への参加や協働事業が進む【評価：B】

《評価の理由》一次産業関係者の協議会への新たな参加はなく、地域づくり小委員会の取組みにおいては協働事業の取組みには至っていないものの、農業従事者との関係づくりが進められている。釧路川支川魚類生息環境の再生事業においては、酪農家の理解、協力を得て再生事業が進められている。

〈3-2 (1) の評価〉

評価 B

総評 期待される成果においては一部課題も見られるものの、地域づくり小委員会の取組みにおける農業従事者との継続した意見交換、釧路川支川魚類生息環境の再生事業における農業従事者の協力を得た取組みの実施等、地域の理解促進に向けた取組み、新たな連携に向けた議論が進んでいる。

(2) 観光分野との連携をすすめる

〈取組みの実施状況〉

○地域づくり小委員会の取組み（取組みの拡充）《一部再掲》

- ・かわたび北海道と連携した利活用プランの提案：釧路湿原を満喫するモニターツアー（釧路町主催）、サイクルツーリズム（シーニックバイウェイの取組みとの連携）、かわたび×うまたびプロジェクト（道東ホースタウンプロジェクト）
- ・ワイズ・ユースに係る取組みの提案・共有：気球係留フライト（釧路町観光協会主催）、仮設トイレの設置（北開水工コンサルタント）、国立公園ブランドプロミス・ロングトレイル（環境省）、インフラわくわくツアー（北海道開発局）
- ・道の駅における取組みとの連携：細岡展望台、温根内木道に関する外国語表記情報カードの作成・設置
- ・自然再生事業箇所利活用の推進：標茶町、鶴居村担当者の現地視察・意見交換、再生事業地利活用についてレイアウトマップ、全体マップを用いた方向性の議論

○フィールド学習のコーディネート（第4期に拡充）《一部再掲》

- ・釧路町主催の故郷学習の事業と連携した取組みを実施。町内の小学生がノロッコ号で細岡展望台を訪問する郷土学習と連動し、観光、生物多様性、湿原の保全や再生を連動させた学びの機会づくりを実施。

〈「期待される成果」の評価〉

- 湿原の保全や再生と観光・地域づくりを両立する取組みがはじまる【評価：A】

《評価の理由》協議会が主導する取組みではないものの、流域の地域では、該当する多様な取組みが進められており、地域づくり小委員会においても、そうした取組みが積極的に共有された。

〈3-2 (2) の評価〉

評価 A

総評 地域づくり小委員会の取組みを通して、情報の発信、相互の交流、つながりづくり等が進められているほか、標茶町、鶴居村において再生事業地の活用に向けた議論が進んでいる。

（３） 湿原のワイズ・ユースに向けたルールの普及

〈取組みの実施状況〉

○地域づくり小委員会の取組み（継続）《一部再掲》

- ・ カヌーガイドラインの改定：カヌーガイドや動植物の専門家への個別ヒアリング、グループヒアリングでの意見交換を通して作成
- ・ カヌーガイドラインの普及に向けた取組み：広報施策の検討、ポケット版・広報ポスターの作成、カヌーガイド・他小委員会事務局と連携した普及
- ・ 釧路湿原右岸堤防の活用の検討、活用事例の共有

〈「期待される成果」の評価〉

- 湿原を訪れる来訪者に向けた、適正な利用のルールが普及する【評価：B】

《評価の理由》カヌーガイドライン改訂版の作成、関係者への周知が進んでいる一方で、カヌー利用者への取組みの浸透を今後進めていく必要がある。

〈３－２ （３）の評価〉

評価 B

総評 カヌーガイドライン改訂版の作成、普及が進んでいるほか、右岸堤防の活用についての議論が始まっている。一方で、利用者（釣り人や散策者）へのルールの浸透、ルールを踏まえた取組みの普及、流域全体を俯瞰した、その他分野におけるルールづくりの議論等を今後進めていくことが求められる。

総評

○「3-1 市民参加・環境教育とともに」について

成果

コロナ禍の制約の中で、多様な主体による思いと努力により、湿原とつながる機会、学びの場、参加機会が維持され、新たな取組みも生まれた。

同時に、困難な状況下を乗り越えるべく、新たな連携やコミュニケーションの形が共有され、今後の市民参加、環境教育の推進に資する成果を得ることができた。

課題

地域の多様な主体とのコミュニケーションの拡充、参加者層、行動層の拡大に向けて、多様な価値観をつなぐ連携を模索し、持続可能な取組みとすべく、新たな取組みや価値観を地域と共につくっていくことが必要である。

○「3-2 湿原とともに暮らす未来に向けて～地域への貢献」について

成果

湿原の保全や再生の必要性を地域と共有し、再生事業を通して地域に貢献していくための基盤となる関係主体との対話、情報交流が継続して行われ、取組みを共につくっていくための議論が進んでいる。

課題

湿原の保全や再生と、一次産業の持続的な発展、観光振興の両立に向けた価値観の創造、協働を地域と対話しながら共につくっていくことが必要である。